Dell™ XPS™ 630i
オーナーズマニュアル

モデル DCDR01

メモ、注意、および警告

メモ：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

モデル DCDR01

2008 年 4 月　　P/N CY069　　Rev.A01

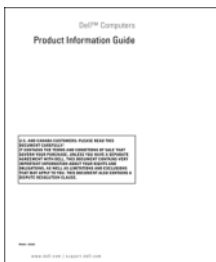
目次

情報の検索方法

メモ：一部の機能やメディアはオプションであり、出荷時にコンピュータに付属していない場合があります。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。

メモ：追加の情報がコンピュータに同梱されている場合もあります。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• コンピュータの Diagnostics（診断）プログラム • コンピュータのドライバ • DSS（デスクトップシステムソフトウェア）	**Drivers and Utilities メディア** **メモ：**『Drivers and Utilities』メディアはオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。 マニュアルおよびドライバは、出荷時に、コンピュータにプリインストールされています。メディアを使用してドライバを再インストールできます（118 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照）。Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行については、97 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。 メディアに収録されている Readme ファイルは、マニュアルの作成後にシステムに追加された変更や、技術者や専門知識をお持ちのユーザーを対象とするテクニカルリファレンスなどが記載されています。 **メモ：**ドライバとマニュアルのアップデートに関しては、**support.jp.dell.com** をご覧ください。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• 保証情報 • 契約条項（アメリカ のみ） • 安全にお使いいただくための注意 • 認可機関の情報 • 快適な使い方 • エンドユーザーライセンス契約	**Dell™ 製品情報ガイド**
• コンピュータのセットアップ方法	**セットアップ図**

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• サービスタグおよびエクスプレスサービスコード • Microsoft Windows ライセンスラベル	**サービスタグと Microsoft® Windows® ライセンス** **メモ：**コンピュータのサービスタグと Microsoft® Windows® ライセンス ラベルはコンピュータに貼付されています。 お使いのコンピュータのサービスタグにはサービスナンバーとエクスプレスサービスコードの両方が含まれています。 • サービスタグは、**support.jp.dell.com** を使用の際、またはサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。 • エクスプレスサービスコードを利用すると、サポートに直接電話で問い合わせることができます。 • ライセンスラベルの Product Key（プロダクトキー）は、オペレーティングシステムを再インストールする場合に使用します。 **メモ：**セキュリティを高める手段の 1 つとして、新たに設計された Microsoft Windows ライセンスラベルには、ラベルの取り外しを阻止するために、「ホール」と呼ばれる欠落部分が組み込まれています。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• 技術情報 — トラブル解決ナビ、Q&A • コミュニティ — 他のデルユーザーとのオンラインディスカッション • サービスと保証 — 問い合わせ先、サービスのお問い合わせ、保証、および修理に関する情報 • サービスおよびサポート — サービス契約 • Dell テクニカル Update Service — お使いのコンピュータに関するソフトウェアおよびハードウェアのアップデートを E- メールにて事前に通知するサービスです。 • 参考資料 — コンピュータのマニュアル、コンピュータ設定の詳細、製品仕様、およびホワイトペーパー • ダウンロード 承認ドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート	**デルサポートサイト — support.jp.dell.com** **メモ :** お住まいの地域または業務部門を選択して、適切なサポートサイトを表示してください。
• デスクトップシステムソフトウェア（DSS）— お使いのコンピュータでオペレーティングシステムを再インストールする場合は、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS は、オペレーティングシステムの重要なアップデート、プロセッサ、光学ドライブ、および USB デバイスなどに関するサポートを提供します。DSS はお使いの Dell コンピュータが正しく動作するために必要なものです。ソフトウェアはお使いのコンピュータおよびオペレーティングシステムを自動的に検知して、設定に適した更新をインストールします。	デスクトップシステムソフトウェアは、**support.jp.dell.com** にてダウンロードできます。 **メモ : support.jp.dell.com** ユーザーインタフェースは、選択内容により異なる場合があります。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• コンピュータと部品に関する情報を検索する方法 • インターネットに接続する方法 • ユーザーアカウントを追加する方法 • 別のコンピュータにあるファイルと設定を転送する方法	**Windows ウェルカムセンター** Windows ウェルカムセンターは、最初のコンピュータの使用時に自動的に表示されます。それをコンピュータの起動時に毎回表示させたい場合には、**Run at startup**（起動時に実行します）チェックボックスにチェックを入れます。また Windows Vista スタートボタン ™ をクリックし、**Welcome Center**（ウェルカムセンター）をクリックして、ウェルカムセンターにアクセスするという方法もあります。
• Microsoft Windows XP または Windows Vista® の使い方 • プログラムとファイルの操作方法 • デスクトップのカスタマイズ方法	**Windows ヘルプとサポート** Microsoft Windows XP： 1 **スタート** ボタンをクリックして **ヘルプとサポート** をクリックします。 2 リストに示されるトピックのいずれかを選択するか、または問題に関連する用語やフレーズを **検索** ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックし、問題を示すトピックをクリックします。 3 画面の指示に従います。 Windows Vista： 1 Windows Vista スタートボタン を クリックして、**Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。 2 Search Help（ヘルプの検索）で、問題に関連する用語やフレーズを入力して、<Enter> を押すか、または拡大鏡をクリックします。 3 問題に関連するトピックをクリックします。 4 画面の指示に従います。

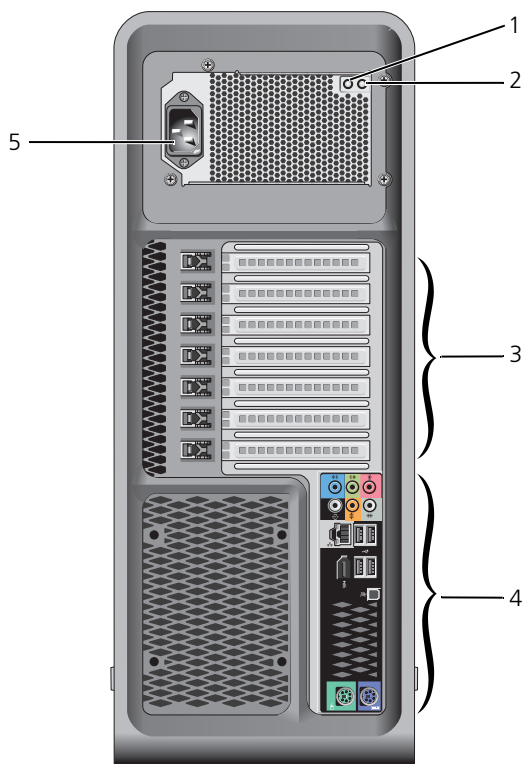
何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• オペレーティングシステムの再インストール方法	オペレーティングシステムは、本コンピュータにすでにインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、『オペレーティングシステムメディア』を使用します。『ユーザーズガイド』または『オーナーズマニュアル』を参照してください。122 ページの「お使いのオペレーティングシステムの復元」 オペレーティングシステムを再インストールした後、『Drivers and Utilities』メディアを使用して、コンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。 オペレーティングシステムの Product Key（プロダクトキー）ラベルは、コンピュータに貼付されています。 **メモ：** CD の色はご注文になったオペレーティングシステムによって異なります。

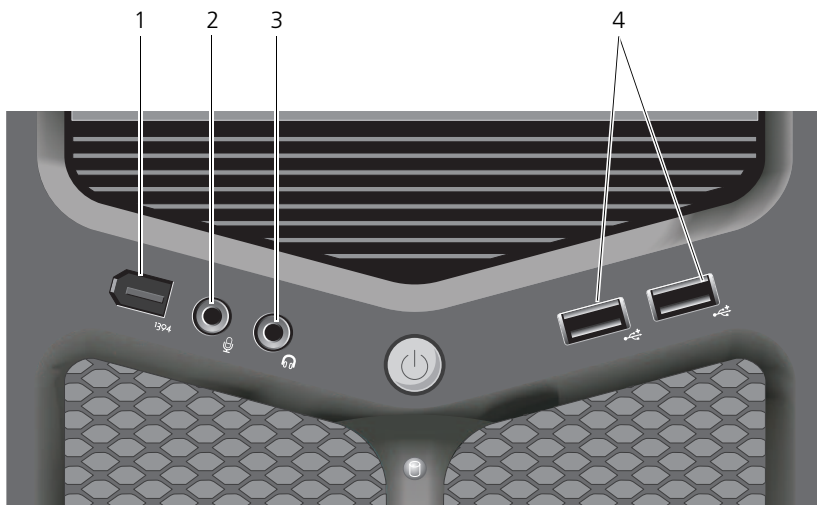
1

お使いのコンピュータについて

コンピュータの正面図

1	前面パネル LED（3）	多色ライトがコンピュータの前面を照らします。
2	光学ドライブパネル	このパネルは、光学ドライブを保護します。光学ドライブは、CD/DVD の再生に使用します。
3	オプションの光学ドライブベイ	光学ドライブをサポートしています。
4	FlexBay ドライブ	フロッピードライブ、メディアカードリーダーまたは追加のハードディスクドライブをサポートしています。
5	前面 I/O コネクタ	USB およびその他のデバイスのプラグを対応するコネクタに差し込みます（18 ページの「前面パネルコネクタ」を参照）。
6	電源ボタン	電源ボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意 :** データの損失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押さずに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。 **注意 :** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。 **メモ :** 電源ボタンを押して、システムを省電力状態からウェイクアップしたり、省電力状態にすることもできます（詳細については 37 ページの「電力の管理」を参照）。
7	前面パネル LED（4）	多色ライトがコンピュータの前面を照らします。
8	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 • 消灯 — コンピュータの電源は切れています。 • 白色のライト — コンピュータは、通常の動作状態です。 • 白色のライトの点滅 — コンピュータは省電力状態です。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャウィンドウで復帰デバイスに設定されている場合は、キーボードかマウスを使います。スリープ状態および省電力状態からの復帰の詳細については、37 ページの「電力の管理」を参照してください。
9	FlexBay ドライブ取り出しボタン	フロッピー / メディアカードリーダーパネルを開閉するにはここを押します。
10	光学ドライブパネル取り出しボタン（2）	光学ドライブを開閉するにはここを押します。

コンピュータの背面図

1	電源装置テスト スイッチ	電源装置のテストに使用します。
2	電源装置診断 LED	電源装置の電源を使用できるかどうかを示します。 • 緑色のライト — 電源装置の電源を使用できることを示します。 • 消灯 — 電源装置の電源を使用できないか、電源装置が機能していないことを示します。詳細に関しては、91 ページの「電源ライト」を参照してください。
3	カードスロット	取り付けられたすべての PCI または PCI Express カード用のアクセスコネクタです。 **メモ :** 一部のコネクタスロットは、フルレングスカードをサポートしています。
4	背面 I/O コネクタ	USB およびその他のデバイスのプラグを 対応するコネクタに差し込みます（19 ページの「背面パネルコネクタ」を参照）。
5	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。このコネクタの外観は図と異なる場合があります。

前面パネルコネクタ

1	IEEE 1394 コネクタ	オプションの **IEEE 1394** コネクタは、デジタルビデオカメラや外部ストレージデバイスなどの高速データデバイスに使用します。
2	マイクコネクタ	マイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続して、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。
3	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタは、ヘッドフォンや外付けスピーカーの接続に使用します。
4	USB 2.0 コネクタ（2）	フラッシュメモリキーやカメラ、または起動可能な **USB** デバイスなど、時折接続するデバイスには、前面 **USB** コネクタを使用します（**USB** デバイスの起動については、**79** ページの「セットアップユーティリティ」を参照してください）。 **メモ：**プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。

背面パネルコネクタ

1	マウスコネクタ	標準型の PS/2 マウスをお使いの場合は、緑色のマウスコネクタに差し込みます。コンピュータおよび取り付けられているすべてのデバイスの電源を切ってから、マウスをコンピュータに接続します。USB マウスをお使いの場合は、USB コネクタに差し込みます。
2	IEEE 1394 コネクタ	IEEE 1394 コネクタは、デジタルビデオカメラや外部ストレージデバイスなどの高速データデバイスに使用します。
3	ネットワーク動作ライト	ネットワーク動作ライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点灯（点滅）します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
4	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワークあるいはブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端をコンピュータのネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッという感触があれば、ネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **注意 :** ネットワークコネクタにモデムケーブルを接続しないでください。 コンピュータにネットワークコネクタカードを追加した状態で、複数のネットワーク接続（別個のイントラネット、エクストラネットなど）を設定する場合は、そのカードとコンピュータの背面にコネクタを使用してください。 ネットワークにはカテゴリ 5 のケーブルとコネクタを使用することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
5	リンク保全ライト	• 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1000 Mbps（または 1 Gbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
6	サラウンドサウンドコネクタ	サラウンドサウンドコネクタ（黒色）には、マルチチャネル対応スピーカーを接続します。

7	ライン入力コネクタ	ライン入力コネクタ（青色）には、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、VCR（ビデオカセットレコーダー）などの録音 / 再生デバイスを接続します。サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
8	ライン出力 / ヘッドフォンコネクタ	ライン出力コネクタ（緑色）には、ヘッドフォンおよびアンプ内蔵型スピーカーを接続します。サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
9	マイクコネクタ	マイクコネクタ（ピンク色）にパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。
10	サイドサラウンドサウンドコネクタ	サイドサラウンドコネクタ（銀色）には、追加のスピーカーを取り付けます。
11	センターサブウーハー /LFE コネクタ	サブウーハーコネクタ（橙色）には、シングルサブウーハーを接続します。 **メモ :** デジタルサラウンドサウンドオーディオ機構にある LFE（低周波エフェクト）オーディオチャネルは、80 Hz 以下の低周波情報のみを伝達します。LFE チャネルはサブウーハーを駆動し、極めて低い音域を拡張します。サブウーハーを使用しないシステムの場合は、サラウンドサウンドのセットアップで LFE の情報をメインスピーカーに切り替えることができます。
12	USB 2.0 コネクタ（4）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには背面 USB コネクタを使用します。 **メモ :** フラッシュメモリキーやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時折接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。
13	光学 S/PDIF コネクタ	光学 S/PDIF コネクタは、アナログオーディオ変換処理を行わずにデジタルオーディオを伝送する場合に使用します。
14	キーボードコネクタ	標準型の PS/2 キーボードをお使いの場合は、紫色のキーボードコネクタに差し込みます。コンピュータおよび取り付けられているすべてのデバイスの電源を切ってから、キーボードをコンピュータに接続します。USB キーボードをお使いの場合は、USB コネクタに差し込みます。

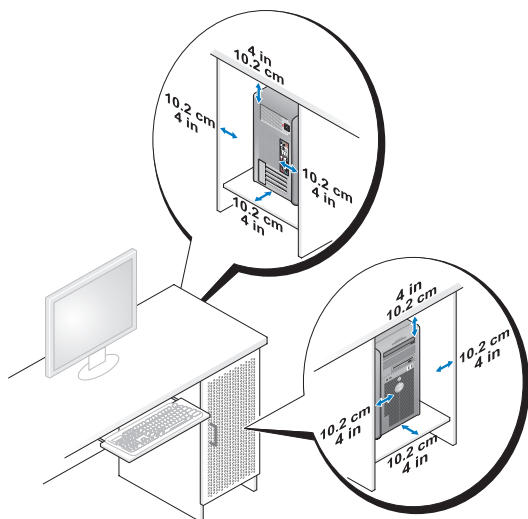
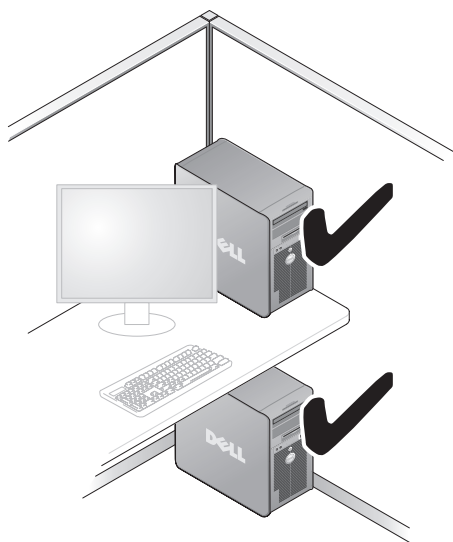
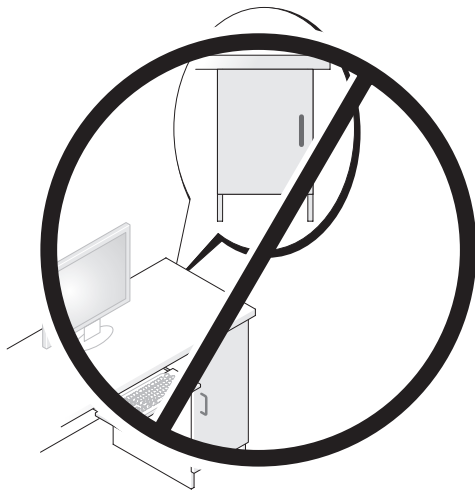
2

コンピュータのセットアップ

お使いのコンピュータのエンクロージャへの取り付け

お使いのコンピュータをエンクロージャに取り付けると、空気の流れが妨げられ、コンピュータのパフォーマンスに影響する場合があり、コンピュータが過熱する原因にもなる可能性があります。お使いのコンピュータをエンクロージャに取り付ける際は、以下のガイドラインに従ってください。

注意 : このマニュアルで指定している動作温度の仕様は、最大環境動作温度を反映しています。お使いのコンピュータをエンクロージャに取り付ける際には、周囲温度に配慮する必要があります。たとえば、周囲温度が 25 ℃の場合、コンピュータの仕様によっては、わずか 5 ～ 10 ℃上昇するとコンピュータの最大動作温度に達します。お使いのコンピュータの仕様の詳細については、129 ページの「仕様」を参照してください。

- 適切な換気のために必要な空気の流れを確保するため、コンピュータのすべての通気孔のある側面に、少なくとも 10.2 cm のすきまがあるようにします。
- エンクロージャに扉がある場合、前面および背面エンクロージャを通じて、少なくとも 30 ％ の空気循環を可能にする種類の扉である必要があります。

- お使いのコンピュータがデスクの角や下に取り付けられている場合は、適切な換気のために必要な空気の流れを確保するため、コンピュータの背面から壁まで少なくとも 5.1 cm のすき間があるようにします。

注意 : 空気の流れのないエンクロージャにはコンピュータを取り付けないでください。空気の流れを妨げると、コンピュータのパフォーマンスに悪影響が及び、過熱を引き起こす可能性があります。

インターネットへの接続

メモ : ISP および ISP が提供するオプションは国によって異なります。

インターネットに接続するには、モデムまたはネットワーク接続、および ISP（インターネットサービスプロバイダ）が必要です。ISP は、1 つまたは複数の以下のインターネット接続オプションを提供します。

- 既存の電話回線または携帯電話サービスを経由して高速のインターネットアクセスを提供する DSL 接続。DSL 接続では、インターネットにアクセスしながら同時に同じ回線で電話を使用することができます。
- 既存のケーブルテレビ回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供するケーブルモデム接続。
- 衛星テレビシステムを通じて高速のインターネットアクセスを提供する衛星モデム接続。
- 電話回線を経由してインターネットにアクセスできるダイヤルアップ接続。ダイヤルアップ接続は、DSL やケーブル（衛星）モデム接続に比べて速度がかなり遅くなります。
- Bluetooth® ワイヤレステクノロジを使用してインターネットアクセスを提供するワイヤレス LAN 接続。

ダイヤルアップ接続をお使いの場合は、インターネット接続をセットアップする前に、コンピュータのモデムコネクタおよび壁の電話コンセントに電話線を接続します。DSL またはケーブル（衛星）モデム接続を使用している場合、セットアップの手順についてはご契約の ISP または携帯電話サービスにお問い合わせください。

インターネット接続のセットアップ

デスクトップ上にある既存の ISP のショートカットを使用してインターネット接続をセットアップするには、次の手順を実行します。

1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2 Microsoft® Windows® デスクトップで ISP のアイコンをダブルクリックします。
3 画面の手順に従ってセットアップを完了します。

デスクトップに ISP のアイコンがない場合、または別の ISP を使ってインターネット接続をセットアップしたい場合は、次項に記載されている、お使いのコンピュータのオペレーティングシステムに対応する手順を実行します。

メモ：インターネットにうまく接続できない場合、103 ページの「エラーメッセージ」を参照してください。過去にインターネットに正常に接続できていたのに接続できない場合、ISP のサービスが停止している可能性があります。サービスの状態について ISP に確認するか、後でもう一度接続してみてください。

Windows XP

1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2 **スタート** → **Internet Explorer** をクリックします。

   新しい接続ウィザード が表示されます。
3 **インターネットに接続する** をクリックします。
4 次のウィンドウで、該当する以下のオプションをクリックします。
   - ISP と契約していない場合に新たに選択する場合は、**インターネットサービス プロバイダ（ISP）の一覧から選択する** をクリックします。
   - ISP からセットアップ情報を入手済みであるが、セットアップ CD を受け取っていない場合は、**接続を手動でセットアップする** をクリックします。
   - CD をお持ちの場合は、**ISP から提供された CD を使用する** をクリックします。

5 **次へ** をクリックします。

接続を手動でセットアップする を選んだ場合は、手順 6 に進みます。それ以外の場合は、画面の手順に従ってセットアップを完了してください。

メモ：どの種類の接続を選んだらよいかわからない場合は、ご契約の ISP にお問い合わせください。

6 **インターネットにどう接続しますか？** で該当するオプションをクリックし、**次へ** をクリックします。

7 ISP から提供されたセットアップ情報を使って、セットアップを完了します。

Windows Vista®

メモ：ご契約の ISP 情報をご用意ください。ISP に登録していない場合は、**Connect to the Internet**（インターネットに接続する）ウィザードを利用すると簡単に登録できます。

1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

2 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Control Panel**（コントロールパネル）をクリックします。

3 **Network and Internet**（ネットワークとインターネット）の **Connect to the Internet**（インターネットに接続する）をクリックします。

Connect to the Internet（インターネットに接続する）ウィンドウが表示されます。

4 以下のように、希望する接続方法によって **Broadband (PPPoE)**（ブロードバンド（PPPoE））または **Dial-up**（ダイヤルアップ）をクリックします。

- DSL、衛星モデム、ケーブルテレビのモデム、または Bluetooth ワイヤレステクノロジ接続を使用する場合は、**Broadband**（ブロードバンド）を選択します。
- ダイヤルアップモデムまたは ISDN を使用する場合は、**Dial-up**（ダイヤルアップ）を選択します。

メモ：どの接続タイプを選択すべきか分からない場合は、**Help me choose**（選択についての説明を表示します）をクリックするか、ご契約の ISP にお問い合わせください。

5 画面の指示に従って、ISP から提供されたセットアップ情報を使用してセットアップを完了します。

新しいコンピュータへの情報の転送

あるコンピュータから別のコンピュータへ、たとえば古いコンピュータから新しいコンピュータへ、ファイルやその他のデータを転送する場合は、お使いのオペレーティングシステムの「ウィザード」が便利です。手順については、以下から、お使いのコンピュータのオペレーティングシステムに対応する項を参照してください。

Microsoft® Windows® XP

Microsoft Windows XP のオペレーティングシステムには、データを元のコンピュータから新しいコンピュータに転送する、**ファイルと設定の転送ウィザード**があります。下記のデータが転送できます。

- E- メールメッセージ
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

ネットワーク接続またはシリアル接続を介して新しいコンピュータにデータを転送したり、書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。

メモ : 古いコンピュータから新しいコンピュータに情報を転送するには、シリアルケーブルを 2 台のコンピュータの入力 / 出力（I/O）ポートに直接接続します。データをシリアル接続を介して転送するには、コントロールパネルからネットワーク接続ユーティリティにアクセスして、詳細設定接続の設定、およびホストコンピュータやゲストコンピュータの指定など、追加の設定手順を実行する必要があります。

2 台のコンピュータで直接ケーブルを接続する手順については、マイクロソフトのウェブサイトにて 「How to Set Up a Direct Cable Connection Between Two Computers in Windows XP」という文書を参照してください。この情報は、特定の国では使用できない場合もあります。

新しいコンピュータに情報を転送するには、ファイルと設定の転送ウィザード を実行する必要があります。このプロセスを実行するには、オプションの『オペレーティングシステム』メディアを使用するか、またはファイルと設定の転送ウィザードでウィザードディスクを作成することができます。

オペレーティングシステムメディアを使用してファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

メモ : この手順では、『オペレーティングシステム』メディアが必要です。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

1 ファイルと設定の転送ウィザードを開きます。これには、**スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。

2 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。

3 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ** → **次へ** をクリックします。

4 **Windows XP CD がありますか ?** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** → **次へ** をクリックします。

5 **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム』メディアを挿入します。

2 **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。

3 **何を転送しますか ?** 画面で、**ファイルと設定を転送する** → **次へ** とクリックします。

4 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で、**転送元の古いコンピュータ** → **次へ** をクリックします。

5 **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。

6 **何を転送しますか ?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。

7 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2 **ファイルと設定はどこにありますか ?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**終了** 画面が表示されます。
3 **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

オペレーティングシステムメディアを使用してファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

『オペレーティングシステム』メディアを使用せずに、ファイルと設定の転送ウィザードを実行するには、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアに作成できるウィザードディスクを作成する必要があります。

ウィザードディスクを作成するには、Windows XP を搭載した新しいコンピュータを使用して、以下の手順を実行します。

1 ファイルと設定の転送ウィザードを開きます。これには、**スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
2 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ** → **次へ** をクリックします。
4 **Windows XP CD がありますか ?** 画面で、**次のドライブでウィザードディスクを作成する** → **次へ** をクリックします。
5 書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアを挿入して、**OK** をクリックします。
6 ディスク作成が完了したら、`Now go to your old computer`（今、古いコンピュータに行ってください。）というメッセージが表示されますが、**次へ** はクリックしないでください。
7 古いコンピュータに移動します。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1 古いコンピュータで、ウィザードディスクを挿入します。
2 **スタート** → **実行** をクリックします。

3 **ファイル名を指定して実行** ウィンドウの **名前** フィールドで、**fastwiz**（該当するリムーバブルメディア）へのパスを参照して入力し **OK** をクリックします。
4 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で、**転送元の古いコンピュータ** → **次へ** をクリックします。
6 **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7 **何を転送しますか？** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**収集フェーズを処理しています** 画面が表示されます。
8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2 **ファイルと設定はどこにありますか？** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。画面の指示に従います。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**終了** 画面が表示されます。
3 **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

Windows Vista

1 Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Transfer files and settings**（ファイルと設定を転送する）→ **Start Windows Easy Transfer**（Windows Easy Transfer をスタートする ）クリックします。
2 **User Account Control**（ユーザーアカウント制御）ダイアログボックスで、**Continue**（続行）をクリックします。
3 **Start a new transfer**（新しい転送を開始する）または **Continue a transfer in progress**（実行中の転送を続行する）をクリックします。

Windows Easy Transfer ウィザードの画面の指示に従います。

プリンタのセットアップ

注意： オペレーティングシステムのセットアップを完了してから、プリンタをコンピュータに接続してください。

以下の手順を含むセットアップ情報については、プリンタに付属のマニュアルを参照してください。

- アップデートされたドライバの入手とインストール
- プリンタのコンピュータへの接続
- 給紙およびトナー、またはインクカートリッジの取り付け

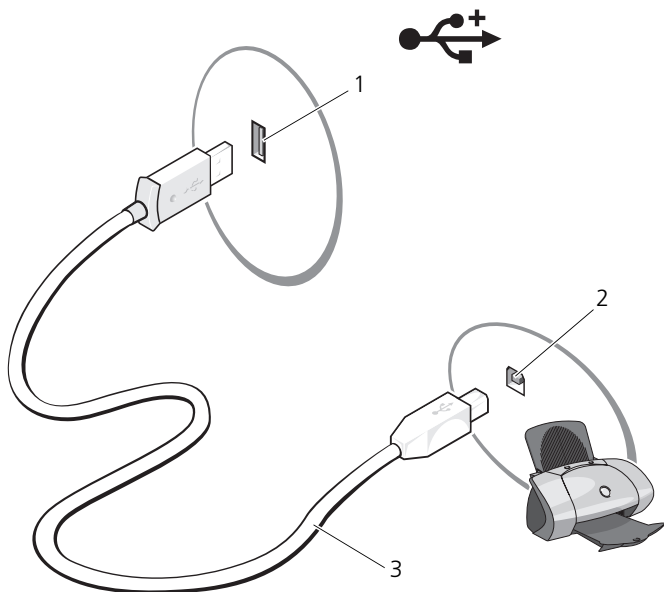
テクニカルサポートが必要な場合、プリンタのオーナーズマニュアルを参照するか、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタケーブル

USB ケーブルまたはパラレルケーブルのどちらかを使って、プリンタをコンピュータに接続します。プリンタにはプリンタケーブルが付属されていない場合があります。ケーブルを別に購入する際は、プリンタおよびコンピュータと互換性があることを確認してください。コンピュータと一緒にプリンタケーブルを購入された場合は、ケーブルはコンピュータの箱に同梱されています。

USB プリンタの接続

メモ : USB デバイスは、コンピュータに電源が入っている状態でも、接続することができます。

1. オペレーティングシステムをまだセットアップしていない場合は、セットアップを完了します。
2. コンピュータとプリンタの USB コネクタに USB プリンタケーブルを差し込みます。USB コネクタは決まった方向にだけ差し込めるようになっています。

1	コンピュータの USB コネクタ	2	プリンタの USB コネクタ
3	USB プリンタケーブル		

3 プリンタの電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

4 次に示すようにコンピュータのオペレーティングシステムによっては、プリンタドライバのインストールにプリンタウィザードを使用できる場合があります。

お使いのコンピュータで Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムを実行している場合、**新しいハードウェアの追加ウィザード** ウィンドウが表示されたら、**キャンセル** をクリックします。

お使いのコンピュータで Windows Vista® オペレーティングシステムを実行している場合、Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Network**（ネットワーク）→ **Add a printer**（プリンタの追加）をクリックしてプリンタの追加ウィザードを開始します。

5 必要に応じて、プリンタドライバをインストールします。118 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」およびプリンタに付属のマニュアルを参照してください。

2 台のモニタの接続

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

デュアルモニタに対応しているグラフィックスカードをご購入された場合、以下の手順に従ってモニタを接続して有効にします。この手順では、2 台のモニタを（それぞれ VGA コネクタを使用して）接続する方法、1 台は VGA コネクタでもう 1 台は DVI コネクタで接続する方法、またはテレビを接続する方法を説明します。

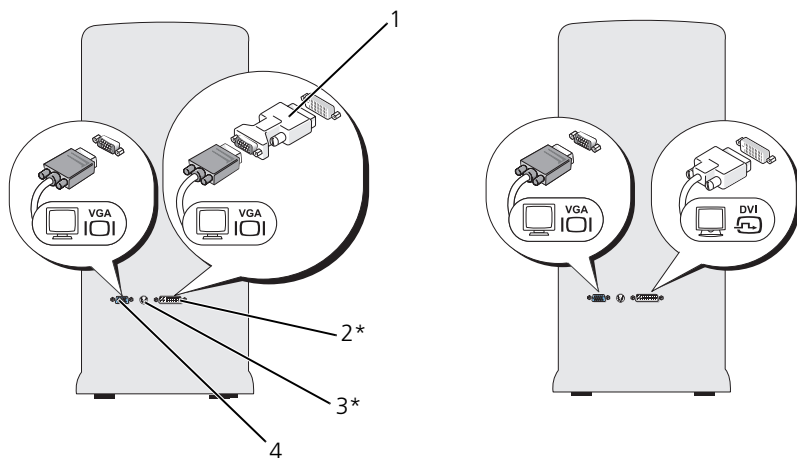
注意 : VGA コネクタを備えたモニタを 2 台接続する場合は、ケーブルを接続するためのオプションの DVI アダプタが必要です。2 台のフラットパネルモニタを接続する場合、少なくとも 1 台に VGA コネクタがある必要があります。テレビを接続する場合は、そのテレビの他にモニタ（VGA または DVI）を 1 台だけ接続できます。

2 台の VGA コネクタ付きモニタを接続する

1 システムをシャットダウンします。

メモ : お使いのコンピュータにビデオが内蔵されている場合は、いずれかのモニタを内蔵ビデオコネクタに接続しないでください。内蔵ビデオコネクタにキャップが付いている場合は、キャップを外してモニタを接続しないでください。接続すると、モニタが機能しなくなります。

2 1 台のモニタを、コンピュータ背面の VGA コネクタ（青）に接続します。

3 もう 1 台のモニタをオプションの DVI アダプタに接続し、その DVI アダプタをコンピュータ背面の DVI コネクタ（白）に接続します。

4 システムを再起動します。

* 機種によってはない場合があります。

1	オプションの DVI アダプタ	2	DVI コネクタ（白）
3	テレビ出力コネクタ	4	VGA コネクタ（青）

1 台のモニタを VGA コネクタで、もう 1 台を DVI コネクタで接続する

1 システムをシャットダウンします。

2 モニタの VGA コネクタをコンピュータ背面の VGA コネクタ（青）に接続します。

3 もう 1 台のモニタの DVI コネクタをコンピュータ背面の DVI コネクタ（白）に接続します。

4 システムを再起動します。

テレビの接続

メモ：コンピュータにテレビを接続するには、S ビデオケーブルを購入する必要があります。S ビデオケーブルは、ほとんどの電器店で購入できます。お使いのコンピュータには、S ビデオケーブルは付属していません。

1 システムをシャットダウンします。

2 S ビデオケーブルの一端をコンピュータ背面にあるオプションのテレビ出力コネクタに接続します。

3 S ビデオケーブルのもう一端を、テレビの S ビデオ入力コネクタに接続します。

4 VGA または DVI モニタを接続します。

5 システムを再起動します。

画面設定の変更

1 モニタまたはテレビを接続したら、コンピュータの電源を入れます。
Microsoft® Windows® のデスクトップがプライマリモニタに表示されます。

2 画面設定で、拡張デスクトップモードを有効にします。拡張デスクトップモードでは、1 つの画面から別の画面にオブジェクトをドラッグして、表示できるスペースを 2 倍にすることができます。

電源保護装置

電圧変動や電力障害の影響からシステムを保護するために、電源保護装置が利用できます。

- サージプロテクタ
- ラインコンディショナ
- 無停電電源装置（UPS）

サージプロテクタ

サージプロテクタやサージプロテクション機能付き電源タップは、雷雨中または停電の後に発生する恐れのある電圧スパイクによるコンピュータへの損傷を防ぐために役立ちます。サージプロテクタの製造業者によっては、特定の種類の損傷に対して保証範囲を設けています。サージプロテクタを選ぶ際は、装置の保証書をよくお読みください。ジュール定格が高いほど、デバイスをより保護できます。ほかの装置と比較して有効性を判断するには、ジュール定格を比較します。

注意 : ほとんどのサージプロテクタには、電力の変動または落雷による電撃に対する保護機能はありません。お住まいの地域で雷が発生した場合は、電話線を電話ジャックから抜いて、さらにコンピュータをコンセントから抜いてください。

サージプロテクタの多くは、モデムを保護するための電話ジャックを備えています。モデム接続の手順については、サージプロテクタのマニュアルを参照してください。

注意 : すべてのサージプロテクタが、ネットワークアダプタを保護できるわけではありません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックから抜いてください。

ラインコンディショナ

注意 : ラインコンディショナには、停電に対する保護機能はありません。

ラインコンディショナは AC 電圧を適切に一定のレベルに保つよう設計されています。

無停電電源装置（UPS）

注意 : データをハードディスクドライブに保存している間に電力が低下すると、データを損失したりファイルが損傷したりする恐れがあります。

メモ : バッテリの最大駆動時間を確保するには、お使いのコンピュータのみを UPS に接続します。プリンタなどその他のデバイスは、サージプロテクションの付いた別の電源タップに接続します。

UPS は電圧変動および停電からの保護に役立ちます。UPS 装置は、AC 電源が切れた際に、接続されているデバイスへ一時的に電力を供給するバッテリを備えています。バッテリは AC 電源が利用できる間に充電されます。バッテリの駆動時間についての情報、および装置が UL（Underwriters Laboratories）規格に適合しているか確認するには、UPS 製造業者のマニュアル を参照してください。

電力の管理

Windows XP の電力管理オプション

Microsoft Windows XP の電源管理機能では、コンピュータに電源が入っていてそのコンピュータを使用していない場合に、コンピュータの消費電力を減らすことができます。モニタやハードディスクドライブへの電力だけを節約することができたり、スタンバイモードや休止状態モードを使ってコンピュータ全体の電力を節約することもできます。コンピュータが省電力モードから通常の動作状態に戻ると、コンピュータは省電力モードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

メモ : Windows XP Professional には、Windows XP Home Edition では利用できないセキュリティおよびネットワーキング機能が含まれています。Windows XP Professional が動作しているコンピュータがネットワークに接続されている場合、セキュリティおよびネットワーキングに関する特定のウィンドウでは、表示される項目が異なります。

メモ : スタンバイモードおよび休止状態モードにする手順は、オペレーティングシステムによって異なります。

スタンバイモード

スタンバイモードは、あらかじめ設定した一定の時間（タイムアウト）コンピュータを操作しないでおくと、ディスプレイとハードディスクドライブの電源を切ることによって電力を節約するモードです。スタンバイモードから復帰すると、コンピュータはスタンバイモードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

注意：スタンバイモードのときにコンピュータの電源が切れると、データを損失する恐れがあります。

あらかじめ設定した一定の時間コンピュータを操作しないと自動的にスタンバイモードが起動するよう設定するには次の手順を実行します。

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **作業する分野を選びます** → **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
2 **コントロールパネルを選んで実行します** にある **電源オプション** をクリックします

非アクティブな状態が一定時間経過するのを待たずに、ただちにスタンバイモードに移行するには、**スタート** → **終了オプション** → **スタンバイ** の順にクリックします。

スタンバイモードを終了するには、キーボードのキーを押すか、マウスを動かします。

休止状態モード

休止状態モードでは、システムデータをハードディスクドライブの予約領域にコピーしてから、コンピュータの電源を切ることによって電力を節約します。コンピュータが休止状態モードから通常の動作状態に復帰すると、デスクトップは休止状態モードに入る前と同じ状態に戻ります。

休止状態モードを起動するには次の手順を実行します。

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **作業する分野を選びます** → **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
2 **コントロールパネルを選んで実行します** にある **電源オプション** をクリックします
3 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで休止状態の設定を行います。

休止状態モードから通常の動作状態に戻るには、電源ボタンを押します。コンピュータが通常の動作状態に戻るのに、若干時間がかかることがあります。休止状態モードではキーボードやマウスは機能しないため、キーボードのキーを押したりマウスを動かしたりしても、コンピュータは休止状態モードから復帰しません。

休止状態モードでは、ハードディスクドライブにコンピュータのメモリの内容を格納するための十分な空きディスク容量を確保する必要があります。お使いのコンピュータには、出荷前に適切な大きさの休止状態モードファイルが作成されています。コンピュータのハードディスクドライブが破損した場合、Windows XP では休止状態ファイルを自動的に再作成します。

電源オプションのプロパティ

電源オプションのプロパティ ウィンドウで、スタンバイモード設定や休止状態モード設定などの電源設定を指定します。**電源オプションのプロパティ** ウィンドウを表示するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** → **コントロールパネル** → **作業する分野を選びます** → **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
2. **コントロールパネルを選んで実行します** にある **電源オプション** をクリックします
3. **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで電源設定を指定します。

電源設定タブ

各標準の電源設定のことを、スキームと呼びます。コンピュータにインストールされた標準の Windows スキームのいずれかを選択する場合は、**電源設定** ドロップダウンメニューからスキームを選択します。選択したスキーム名の下のフィールドにその設定の内容が表示されます。設定には、コンピュータをスタンバイモードまたは休止状態モードにする、モニタの電源を切る、ハードディスクドライブの電源を切る、といったそれぞれ異なる設定があります。

注意 : ハードディスクドライブがモニタより先にタイムアウトになるよう設定すると、コンピュータがロックされたように見えることがあります。通常の動作状態に戻すには、キーボードの任意のキーを押すか、マウスをクリックします。この問題を回避するには、モニタを常にハードディスクドライブより前にタイムアウトになるよう設定します。

電源設定 ドロップダウンメニューには次のスキームが表示されます。

- **常にオン**（デフォルト）— 電力を節約しないでコンピュータを使用する場合。
- **自宅または会社のデスク** — 自宅または会社のコンピュータをほとんど節電せずに使用する場合。
- **ポータブル / ラップトップ** — 移動中に使用するノートブックコンピュータの場合。
- **プレゼンテーション** — 中断せずに（省電力設定使用せずに）コンピュータを使用する場合。
- **最小の電源管理** — 最小限の省電力でコンピュータをお使いになりたい場合。
- **バッテリの最大利用** — ノートブックコンピュータを長時間バッテリでお使いになる場合は、この設定を選びます。

スキームのデフォルト設定を変更する場合は、**モニタの電源を切る**、**ハードディスクの電源を切る**、**システムスタンバイ**、または **システム休止状態** フィールドのドロップダウンメニューをクリックして、表示される一覧からタイムアウト時間を選択します。スキームフィールドのタイムアウトを変更すると、**名前を付けて保存** をクリックして変更したスキームの新しい名前を入力しない限り、そのスキームのデフォルト設定が変更されます。

詳細設定タブ

詳細設定 タブでは次のことができます。

- すばやくアクセスできるように、電源オプションアイコン を Windows のタスクバーに表示します。
- スタンバイモードまたは休止状態モードから復帰する際に、Windows のパスワードの入力を求めるようコンピュータを設定します。
- スタンバイモードまたは休止状態モードの起動、あるいはコンピュータの電源を切る動作を、電源ボタンに割り当てます。

これらの機能を設定するには、対応するドロップダウンメニューからオプションをクリック して、**OK** をクリックします。

休止状態タブ

休止状態 タブでは、休止状態モードを有効にすることができます。**電源設定** タブで指定した休止状態設定を使用する場合は、**休止状態** タブの **休止状態を有効にする** チェックボックスをオンにします。

電源管理のオプションの詳細に関しては次の手順を実行します。

1 **スタート** → **ヘルプとサポート** → **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
2 **パフォーマンスと保守** ウィンドウで、**コンピュータの電力を節約する** をクリックします。

Windows Vista の電力管理オプション

Microsoft Vista の電源管理機能では、コンピュータに電源が入っていてそのコンピュータを使用していない場合に、コンピュータの消費電力を減らすことができます。モニタやハードディスクドライブへの電力だけを節約することができたり、スタンバイモードや休止状態モードを使ってコンピュータ全体の電力を節約することもできます。コンピュータが省電力モードから通常の動作状態に戻ると、コンピュータは省電力モードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

スリープモード

スリープモードは、あらかじめ設定した一定の時間コンピュータを操作しないでおくと（タイムアウト）、ディスプレイとハードディスクドライブの電源を切ることによって電力を節約するモードです。スリープモードから復帰すると、コンピュータはスリープモードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

Windows Vista でスリープモードに入るには、**Start**（スタート） をクリックし、Start（スタート）メニューの右下隅にある矢印をクリックして、**Sleep**（スリープ）をクリックします。

スリープモードを終了するには、キーボードのキーを押すか、マウスを動かします。

休止状態モード

休止状態モードでは、システム情報をハードディスクドライブの予約領域にコピーしてから、コンピュータの電源を切ることによって電力を節約します。休止状態モードから復帰すると、コンピュータは休止状態モードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

Windows Vista で休止状態モードに入るには、**Start**（スタート） をクリックし、Start（スタート）メニューの右下隅にある矢印をクリックして、**Hibernate**（休止状態）をクリックします。

電源管理の設定

Windows 電源オプションのプロパティを使用して、お使いのコンピュータの電力管理の設定を行うことができます。

Power Options Properties（電源オプションのプロパティ）にアクセスするには、**Start**（スタート） →**Control Panel**（コントロールパネル）→ **System and Maintenance**（システムとメンテナンス）→**Power Options**（電源オプション）をクリックします。

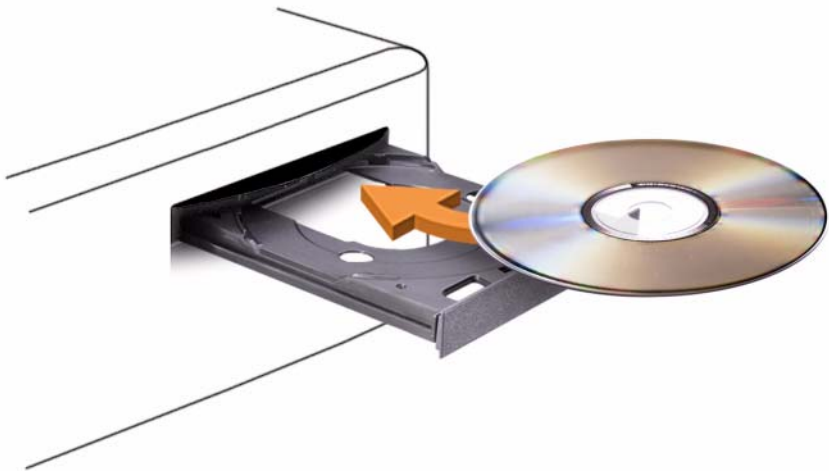
3

マルチメディアの使い方

CD または DVD の再生

注意 : CD / DVD のトレイを開閉する場合は、トレイの上から力を掛けないでください。ドライブを使用しないときは、トレイは閉じておいてください。

注意 : CD または DVD を再生している場合、コンピュータを動かさないでください。

1 ドライブの前面にある取り出しボタンを押します。
2 トレイの中心に、ラベルの付いている面を上にしてディスクを置きます。
3 取り出しボタンを押すか、トレイを優しく押し込みます。

データを保存するために CD をフォーマットしたり、音楽 CD を作成したり、CD をコピーしたりするには、コンピュータに付属の CD ソフトウェアを参照してください。

メモ : CD をコピーする際は、著作権法に基づいていることを確認してください。

CD プレーヤーには以下の基本的なボタンがあります。

▶	再生
◀◀	現在のトラック内での巻き戻し
❚❚	一時停止
▶▶	現在のトラック内での早送り
■	停止
❙◀◀	直前のトラックへ戻る
⏏	取り出し
▶▶❙	直後のトラックへ進む

DVD プレーヤーは次のようなボタンを使用して操作します。

■	停止
↩	鑑賞中の章を再スタート
▶	再生
▶▶	早送り
❚❚	一時停止
◀◀	巻き戻し
❙▶	一時停止モードでのコマ送り
▶▶❙	次の章へ進む
↻	鑑賞中の章を続けて再生する
❙◀◀	前の章へ戻る
⏏	取り出し

CD や DVD の再生の詳細に関しては、CD や DVD プレーヤーの **ヘルプ** をクリックします（ヘルプがある場合）。

CD および DVD のコピー

メモ : CD または DVD を作成する際は、著作権法に基づいていることを確認してください。

本項は、CD-RW、DVD+/-RW、または CD-RW/DVD（コンボ）ドライブを備えたコンピュータにだけ適用されます。

メモ : Dell により提供される CD または DVD ドライブのタイプは国により異なることがあります。

以下の手順では、Roxio Creator Plus - Dell Edition を使って、CD または DVD を完全にコピーする方法について説明します。お使いのコンピュータに保存したオーディオファイルから音楽 CD を作成したり、重要なデータをバックアップするなど、他の目的にも Roxio Creator Plus を使用することができます。ヘルプを参照するには、Roxio Creator Plus を開き、ウィンドウの右上にある疑問符（?）のアイコンをクリックします。

CD または DVD のコピー方法

メモ : CD-RW/DVD コンボドライブでは DVD メディアへの書き込みはできません。CD-RW/DVD コンボドライブを使用していて、書き込みの際に問題が発生した場合は、**sonic.com** の Sonic サポートウェブサイトで利用可能なソフトウェアパッチを確認してください。

Dell™ コンピュータに取り付けられている DVD 書込み可能ドライブは、DVD+/-R、DVD+/-RW および DVD+R DL（デュアルレイヤ）メディアに対して読取りと書込みを行いますが、DVD-RAM または DVD-R DL メディアに対する書込みは行わず、読取りも行わない可能性があります。

メモ : 市販の DVD の大部分は著作権のプロテクションがかかっており、Roxio Creator Plus を使用してコピーすることはできません。

1 Roxio Creator Plus を開きます。

2 **コピー** タブで **ディスクコピー** をクリックします。

3 CD または DVD をコピーするには、次の手順を実行します。

- CD/DVD ドライブが 1 台の場合は、設定が正しいことを確認して、**ディスクコピー** をクリックします。コンピュータがソース CD または DVD を読み取り、コンピュータのハードディスクドライブのテンポラリフォルダにそのデータをコピーします。

  プロンプトが表示されたら、CD または DVD ドライブに空の CD または DVD を挿入し、**OK** をクリックします。

- CD/DVD ドライブが 2 台ある場合は、ソースの CD や DVD を挿入したドライブを選択して、**ディスクコピー**をクリックします。、コンピュータがソース CD または DVD のデータを空の CD または DVD にコピーします。

ソース CD または DVD のコピーが終了すると、作成された CD または DVD は自動的に出てきます。

空の CD および DVD の使い方

DVD 書き込み可能ドライブは、CD 記録メディアと DVD 記録メディアの両方に書き込むことができますが、CD-RW ドライブは CD 記録メディアのみ（高速 CD-RW メディアを含む）に書き込みができます。

音楽や永久保存データファイルを記録するには、空の CD-R を使用してください。CD-R の最大記憶容量に達した後は、CD-R に再度書き込みはできません（詳細に関しては Sonic のマニュアルを参照）。後で CD にある情報を消去、再書き込み、または更新する場合、空の CD-RW を使用してください。

空の DVD+/-R は、大量のデータを永久保存することができます。DVD+/-R ディスクを作成した後、ディスクを作成するプロセスの最終段階でそのディスクがファイナライズまたはクローズされた場合、そのディスクに再度書き込みができない場合があります。後でディスクにある情報を消去、再書き込み、または更新する場合、空の DVD+/-RW を使用してください。

CD 書き込み可能ドライブ

メディアタイプ	読み取り	書き込み	書換可能
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○	○

DVD 書き込み可能ドライブ

メディアタイプ	読み取り	書き込み	書換可能
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○	○
DVD+R	○	○	×
DVD-R	○	○	×
DVD+RW	○	○	○
DVD-RW	○	○	○
DVD+R DL	○	○	×
DVD-R DL	場合による	×	×
DVD-RAM	場合による	×	×

役に立つヒント

- Roxio Creator Plus を開始し、Creator プロジェクトを開いた後であれば、Microsoft® Windows® エクスプローラでファイルを CD-R または CD-RW にドラッグ＆ドロップすることができます。
- コピーした音楽 CD を一般的なステレオで再生させるには、CD-R を使用します。CD-RW は多くの家庭用ステレオおよびカーステレオで再生できない場合があります。
- Roxio Creator Plus を使用して、音楽 DVD を作成することはできません。
- 音楽用 MP3 ファイルは、MP3 プレーヤーでのみ、または MP3 ソフトウェアがインストールされたコンピュータでのみ再生できます。
- 市販されているホームシアターシステム用の DVD プレイヤーは、すべての DVD フォーマットをサポートするとは限りません。お使いの DVD プレイヤーが対応するフォーマットのリストに関しては、DVD プレイヤーに付属のマニュアルを参照するか、または製造元にお問い合わせください。
- 空の CD-R または CD-RW を最大容量までコピーしないでください。たとえば、650 MB のファイルを 650 MB の空の CD にコピーしないでください。CD-RW ドライブは、記録の最終段階で空の CD の 1 ～ 2 MB を必要とします。
- CD の記録について操作に慣れるまで練習するには、空の CD-RW を使用してください。CD-RW なら、失敗しても CD-RW のデータを消去してやりなおすことができます。空の CD-RW ディスクを使用して、空の CD-R ディスクに永久的にプロジェクトを記録する前に、音楽ファイルプロジェクトをテストすることもできます。
- 追加情報については、**www.sonic.com** の Sonic ウェブサイトを参照してください。

画面の調整

現在設定している解像度と色数はメモリの使用量が多すぎて DVD を再生できません、というエラーメッセージが表示される場合、画面のプロパティで画像設定の調節をします。

Microsoft Windows XP

1. **スタート** → **コントロールパネル** → **デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
2. **作業を選びます** で、**画面解像度を変更する** をクリックします。
3. **画面の解像度** で、バーをクリックし、ドラッグして解像度の設定を下げます。
4. **画面の色** のドロップダウンメニューで、**中（16 ビット）**をクリックし、**OK** をクリックします。

Windows Vista® オペレーティングシステム

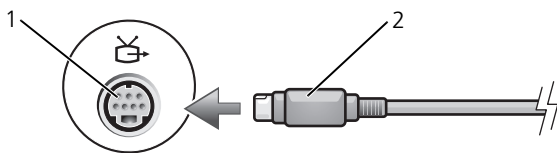
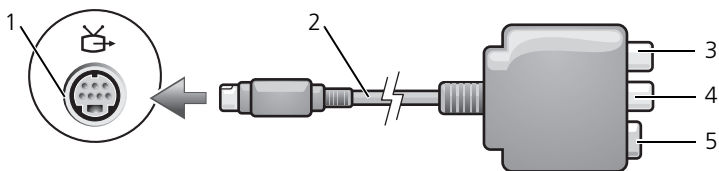
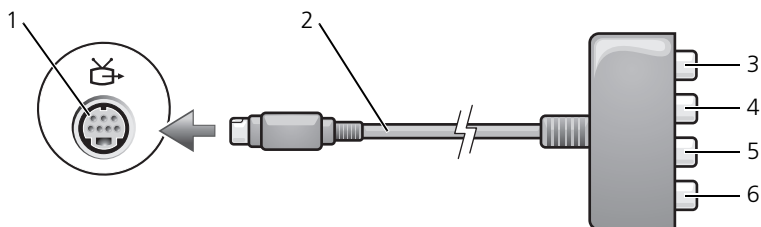
1 スタートボタン をクリックし、**Control Panel**（コントロールパネル）をクリックして、**Appearance and Personalization**（デスクトップのカスタマイズ）をクリックします。
2 **Personalization**（個人設定）で、**Adjust Screen Resolution**（画面の解像度の調整）をクリックします。

   Display Properties（画面のプロパティ）ウィンドウが表示されます。
3 **Resolution**（解像度）で、バーをクリックし、ドラッグして解像度の設定を下げます。
4 **Colors**（画面の色）のドロップダウンメニューで、**Medium（16 bit）**（中ー 16 ビット）をクリックします。
5 **OK** をクリックします。

テレビまたはオーディオデバイスへのコンピュータの接続

メモ : テレビまたはその他のオーディオデバイスとコンピュータを接続するビデオケーブルとオーディオケーブルは、お使いのコンピュータには付属していない場合があります。

お使いのコンピュータには、標準の S ビデオケーブルとコンポジットビデオアダプタケーブル、またはコンポーネントビデオアダプタケーブル（デルから購入可能）と共に、コンピュータをテレビに接続できる S ビデオ TV 出力コネクタ（オプション）が同梱されています。

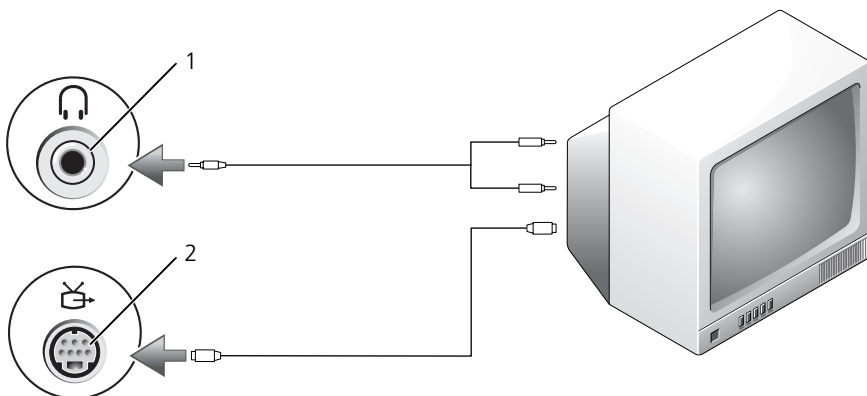
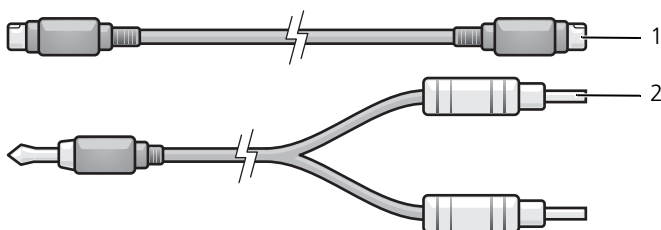
テレビには、S ビデオ入力コネクタやコンポジットビデオ入力コネクタ、またはコンポーネントビデオ入力コネクタのいずれかが装備されています。テレビで使用可能なコネクタのタイプによって、市販の S ビデオケーブル、コンポジットビデオケーブル、またはコンポーネントビデオケーブルを使用して、コンピュータをテレビに接続できます。

1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	S ビデオコネクタ

1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	コンポジットビデオアダプタ
3	S/PDIF デジタルオーディオコネクタ	4	コンポジットビデオ出力コネクタ
5	S ビデオコネクタ		

1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	コンポーネントビデオアダプタ
3	S/PDIF デジタルオーディオコネクタ	4	Pr（赤色）コンポーネントビデオ出力コネクタ
5	Pb（青色）コンポーネントビデオ出力コネクタ	6	Y（緑色）コンポーネントビデオ出力コネクタ

コンピュータをテレビやオーディオデバイスに接続する場合は、次のいずれかの組み合わせでビデオケーブルとオーディオケーブルをコンピュータに接続することをお勧めします。

- S ビデオと標準オーディオ
- コンポジットビデオと標準オーディオ
- コンポーネント出力ビデオと標準オーディオ

 メモ : どの接続方法をお使いになるかを決める際の参考として、各サブセクションのはじめにある接続の組み合わせ図を参照してください。

コンピュータとテレビをビデオケーブルとオーディオケーブルで接続すると、コンピュータでテレビを操作することが可能になります。63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。また、S/PDIF デジタルオーディオをお使いの場合は、62 ページの「S/PDIF デジタルオーディオの有効化」を参照してください。

S ビデオと標準オーディオ

1	オーディオコネクタ	2	S ビデオ TV 出力コネクタ

1	標準 S ビデオケーブル	2	標準オーディオケーブル

1 接続するコンピュータ、テレビ、およびオーディオデバイスの電源を切ります。

メモ : テレビまたはオーディオデバイスが S ビデオ対応で、S/PDIF デジタルオーディオ対応ではない場合、、テレビまたはデジタルオーディオアダプタケーブルを使用せずに、S ビデオケーブルを直接コンピュータの S ビデオ TV 出力コネクタに接続することができます。

2 S ビデオケーブルの一端をコンピュータの S ビデオ出力コネクタに差し込みます。

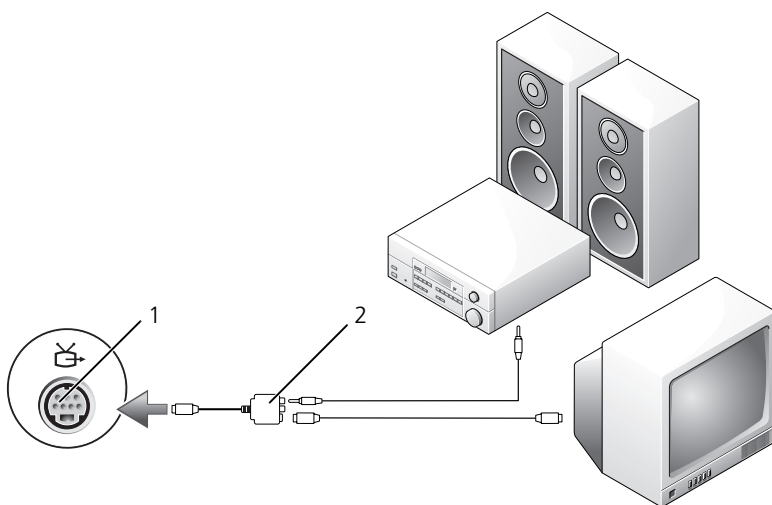
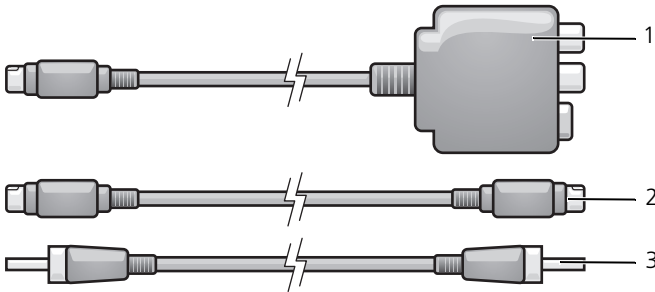
3 S ビデオケーブルのもう一方の端を、テレビの S ビデオ入力コネクタに差し込みます。

4 コネクタが 1 つ付いている方のオーディオケーブルの端を、コンピュータのヘッドフォンコネクタに差し込みます。

5 もう一方のオーディオケーブルの端にある 2 つの RCA コネクタを、テレビまたは他のオーディオデバイスのオーディオ入力コネクタに差し込みます。

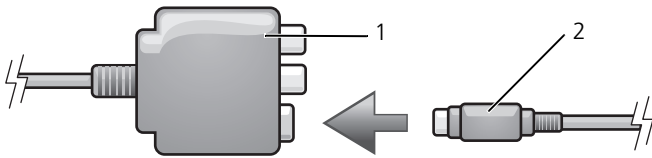
6 テレビおよび接続したすべてのオーディオデバイス（該当する場合）の電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

7 63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。

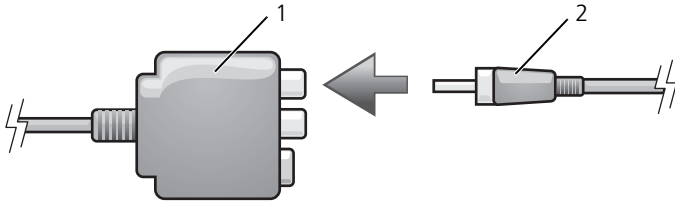
S ビデオと S/PDIF デジタルオーディオ

1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	コンポジットビデオアダプタ

1	コンポジットビデオアダプタ	2	S ビデオケーブル
3	S/PDIF デジタルオーディオケーブル		

1 接続するコンピュータ、テレビ、およびオーディオデバイスの電源を切ります。

2 コンポジットビデオアダプタを、コンピュータの S ビデオ TV 出力コネクタに接続します。

3 S ビデオケーブルの一方の端を、コンポジットビデオアダプタの S ビデオ出力コネクタに差し込みます。

1	コンポジットビデオアダプタ	2	S ビデオケーブル

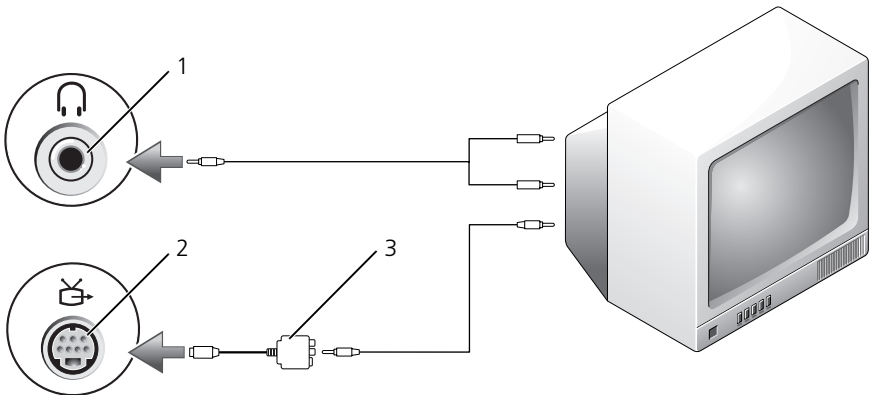
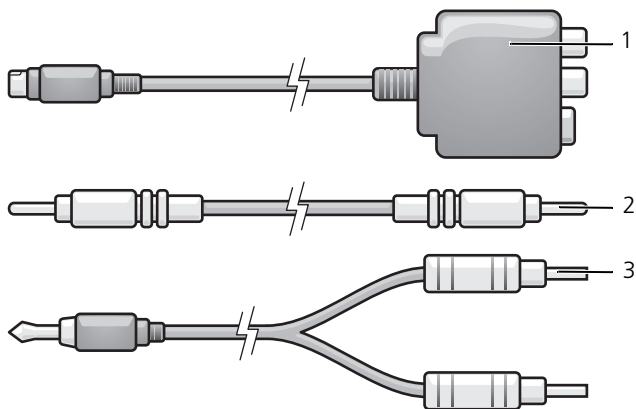
4 S ビデオケーブルのもう一方の端を、テレビの S ビデオ入力コネクタに差し込みます。

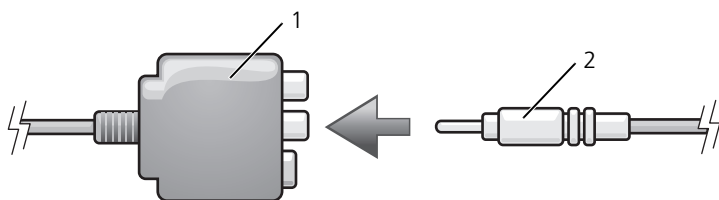
5 S/PDIF デジタルオーディオケーブルの一方の端を、コンポジットビデオアダプタケーブルのデジタルオーディオコネクタに差し込みます。

1 コンポジットビデオアダプタ 2 S/PDIF デジタルオーディオケーブル

6 S/PDIF デジタルオーディオケーブルのもう一方の端を、テレビまたはオーディオデバイスのオーディオ入力コネクタに差し込みます。

7 テレビおよび接続したすべてのオーディオデバイス（該当する場合）の電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

8 63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。

コンポジットビデオと標準オーディオ

1 オーディオ入力コネクタ 2 S ビデオ TV 出力コネクタ
3 コンポジットビデオアダプタ

1	コンポジットビデオアダプタ	2	コンポジットビデオケーブル
3	標準オーディオケーブル		

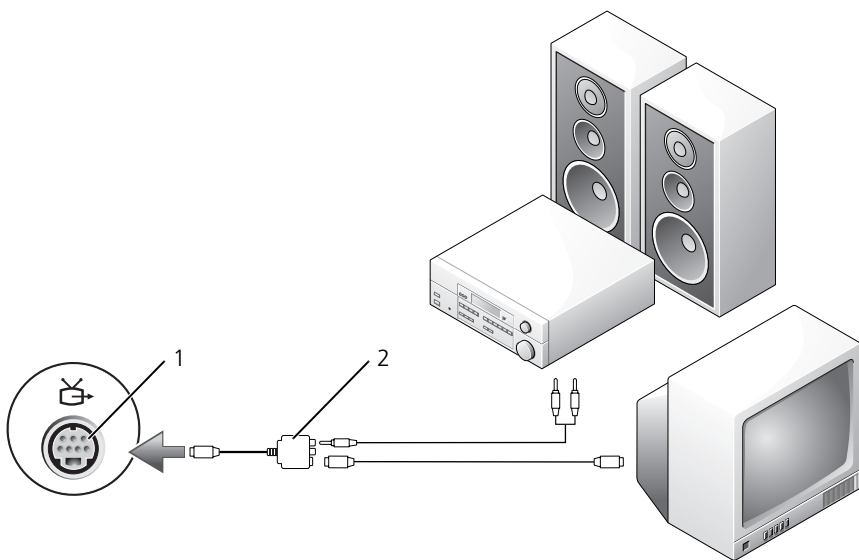
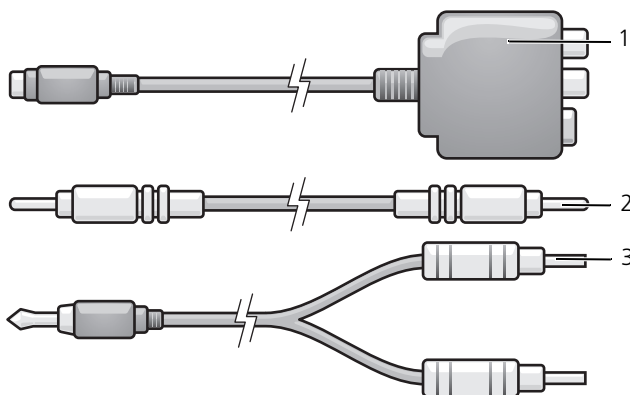
1. 接続するコンピュータ、テレビ、およびオーディオデバイスの電源を切ります。
2. コンポジットビデオアダプタを、コンピュータの S ビデオ TV 出力コネクタに接続します。
3. コンポジットビデオケーブルの一方の端を、コンポジットビデオアダプタのコンポジットビデオ出力コネクタに差し込みます。

1	コンポジットビデオアダプタ	2	コンポジットビデオケーブル

4. コンポジットビデオケーブルのもう一方の端を、テレビのコンポジットビデオ入力コネクタに差し込みます。
5. コネクタが 1 つ付いている方のオーディオケーブルの端を、コンピュータのヘッドフォンコネクタに差し込みます。

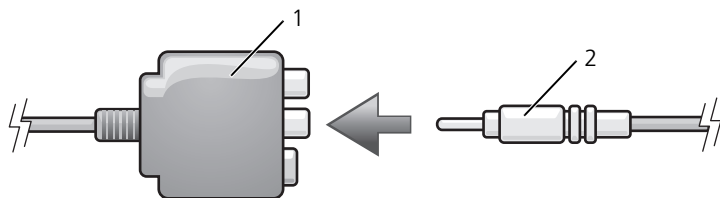
6 もう一方のオーディオケーブルの端にある 2 つの RCA コネクタを、テレビまたは他のオーディオデバイスのオーディオ入力コネクタに差し込みます。

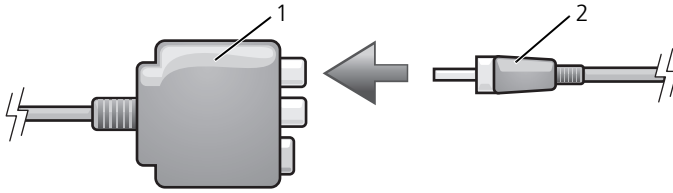
7 テレビおよび接続したすべてのオーディオデバイス（該当する場合）の電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

8 63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。

コンポジットビデオと S/PDIF デジタルオーディオ

1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	コンポジットビデオアダプタ

1 コンポジットビデオアダプタ 2 コンポジットビデオケーブル
3 標準オーディオケーブル

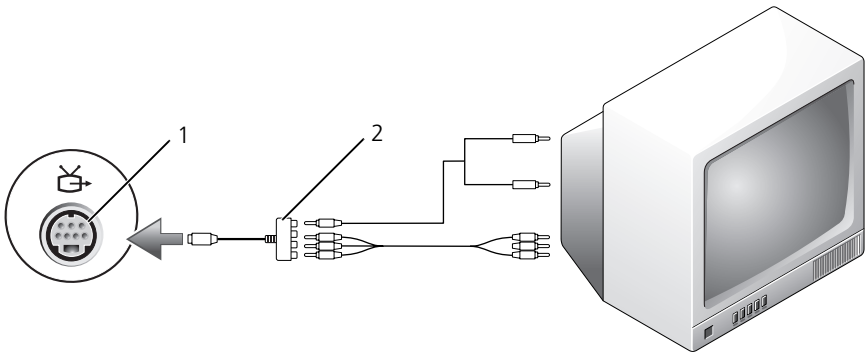
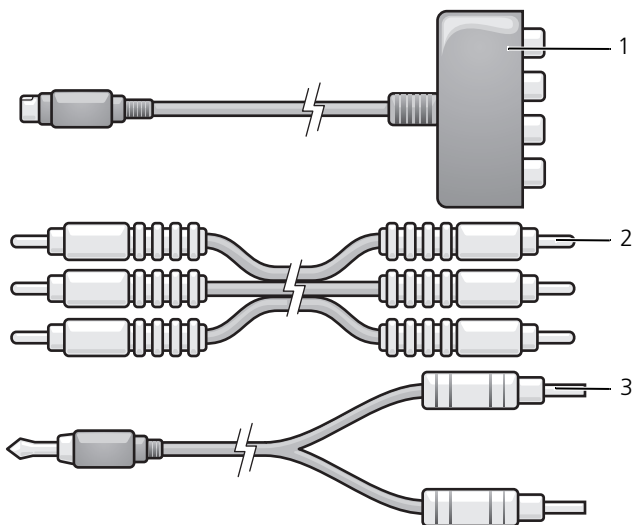
1 接続するコンピュータ、テレビ、およびオーディオデバイスの電源を切ります。
2 コンポジットビデオアダプタを、コンピュータの S ビデオ TV 出力コネクタに接続します。
3 コンポジットビデオケーブルの一方の端を、コンポジットビデオアダプタのコンポジットビデオ入力コネクタに差し込みます。

1 コンポジットビデオアダプタ 2 コンポジットビデオケーブル

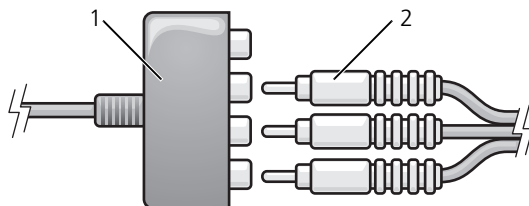
4 コンポジットビデオケーブルのもう一方の端を、テレビのコンポジットビデオ入力コネクタに差し込みます。
5 S/PDIF デジタルオーディオケーブルの一方の端を、コンポジットビデオアダプタの S/PDIF オーディオコネクタに差し込みます。

1	コンポジットビデオアダプタ	2	S/PDIF デジタルオーディオケーブル

6 デジタルオーディオケーブルのもう一方の端を、テレビまたは他のオーディオデバイスの S/PDIF 入力コネクタに差し込みます。

7 テレビおよび接続したすべてのオーディオデバイス（該当する場合）の電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

8 63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。

コンポーネントビデオと標準オーディオ

1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	コンポーネントビデオアダプタ

1	コンポーネントビデオアダプタ	2	コンポーネントビデオケーブル
3	標準オーディオケーブル		

1 接続するコンピュータ、テレビ、およびオーディオデバイスの電源を切ります。
2 コンポーネントビデオアダプタを、コンピュータの S ビデオ TV 出力コネクタに接続します。
3 コンポーネントビデオケーブルの 3 つの端すべてを、コンポーネントビデオアダプタのコンポーネントビデオ出力コネクタに差し込みます。ケーブルの色（赤、緑、青）が対応するアダプタポートと一致していることを確認してください。

1	コンポーネントビデオアダプタ	2	コンポーネントビデオケーブル

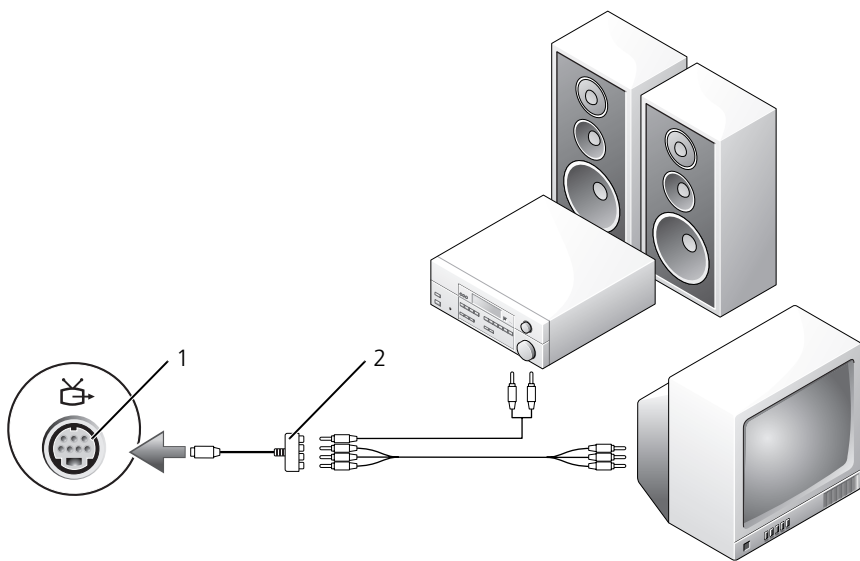
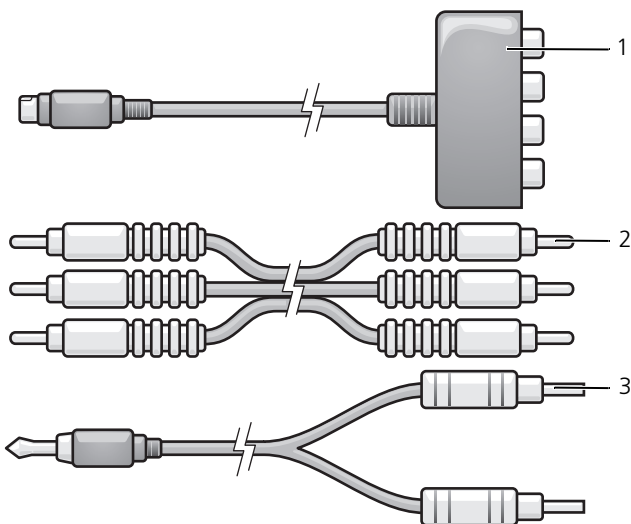
4 コンポーネントビデオケーブルのもう一方の端にある 3 つのコネクタすべてを、テレビのコンポーネントビデオ入力コネクタに差し込みます。ケーブルの色（赤、緑、青）が、テレビの入力コネクタの色と一致していることを確認してください。

5 コネクタが 1 つ付いている方のオーディオケーブルの端を、コンピュータのヘッドフォンコネクタに差し込みます。

6 もう一方のオーディオケーブルの端にある 2 つの RCA コネクタを、テレビまたはオーディオデバイスのオーディオ入力コネクタに差し込みます。

7 テレビおよび接続したすべてのオーディオデバイス（該当する場合）の電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

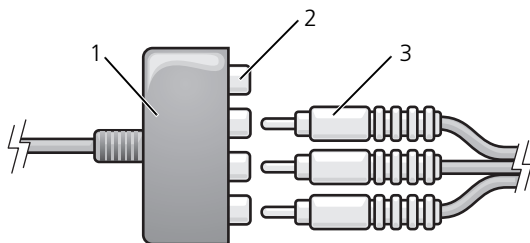
8 63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。

コンポーネントビデオと S/PDIF デジタルオーディオ

1 S ビデオ TV 出力コネクタ　2 コンポーネントビデオアダプタ

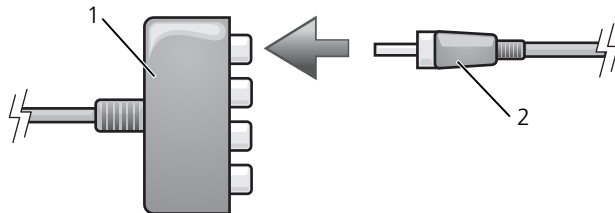
1	コンポーネントビデオアダプタ	2	コンポーネントビデオケーブル
3	標準オーディオケーブル		

1 接続するコンピュータ、テレビ、およびオーディオデバイスの電源を切ります。

2 コンポーネントビデオアダプタを、コンピュータの S ビデオ TV 出力コネクタに接続します。

3 コンポーネントビデオケーブルの 3 つの端すべてを、コンポーネントビデオアダプタのコンポーネントビデオ出力コネクタに差し込みます。ケーブルの色（赤、緑、青）が対応するアダプタポートと一致していることを確認してください。

1	コンポーネントビデオアダプタ	2	コンポーネントビデオ出力コネクタ
3	コンポーネントビデオケーブル		

4 コンポーネントビデオケーブルのもう一方の端にある 3 つのコネクタすべてを、テレビのコンポーネントビデオ入力コネクタに差し込みます。ケーブルの色（赤、緑、青）が、テレビの入力コネクタの色と一致していることを確認してください。

5 S/PDIF デジタルオーディオケーブルの一方の端を、コンポーネントビデオアダプタの S/PDIF オーディオコネクタに差し込みます。

1	コンポーネントビデオアダプタ	2	S/PDIF デジタルオーディオケーブル

6 デジタルオーディオケーブルのもう一方の端を、テレビまたは他のオーディオデバイスの S/PDIF 入力コネクタに差し込みます。

7 テレビおよび接続したすべてのオーディオデバイス（該当する場合）の電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。

8 63 ページの「テレビの画面設定の有効化」を参照して、コンピュータがテレビを認識し、正常に動作していることを確認します。

S/PDIF デジタルオーディオの有効化

お使いのコンピュータに DVD ドライブが搭載されている場合、DVD 再生用にデジタルオーディオを有効にできます。

1 **Cyberlink PowerDVD** アプリケーションを起動します。
2 DVD ドライブに DVD を挿入します。
DVD の再生が始まった場合は、停止ボタンを押します。
3 **Settings**（設定）オプションをクリックします。
4 **DVD** オプションをクリックします。
5 **DVD Audio Setting**（音声設定）アイコンをクリックします。
6 **Speaker Configuration**（スピーカー設定）設定の横にある矢印をクリックしてオプションをスクロールし、**SPDIF** オプションを選択します。
7 **Back**（戻る）ボタンを一度クリックし、もう一度 **Back**（戻る）ボタンをクリックしてメインメニュー画面に戻ります。

Windows オーディオドライバでの S/PDIF の有効化

1 Windows のタスクトレイでスピーカーアイコンをダブルクリックします。
2 **Options**（オプション）メニューをクリックしてから、**Advanced Controls**（トーン調整）をクリックします。
3 **Advanced**（詳細設定）をクリックします。
4 **S/PDIF Interface**（S/PDIF インタフェース）をクリックします。
5 **Close**（閉じる）をクリックします。
6 **OK** をクリックします。

Cyberlink（CL）ヘッドフォンの設定

メモ : CL ヘッドフォン機能は、お使いのコンピュータに DVD ドライブが搭載されている場合にのみ有効です。

お使いのコンピュータに DVD ドライブが搭載されている場合、DVD 再生用にデジタルオーディオを有効にできます。

1 **Cyberlink PowerDVD** プログラムを起動します。
2 DVD ドライブに DVD を挿入します。
DVD の再生が始まった場合は、停止ボタンを押します。
3 **Settings**（設定）オプションをクリックします。
4 **DVD** オプションをクリックします。
5 **DVD Audio Setting**（音声設定）アイコンをクリックします。

6 **Speaker Configuration**（スピーカー設定）設定の横にある矢印をクリックしてオプションをスクロールし、**SPDIF** オプションを選択します。
7 **Audio listening mode**（オーディオリスニングモード）設定の横にある矢印をクリックしてオプションをスクロールし、**CL Headphone**（CL ヘッドフォン）オプションを選択します。
8 **Dynamic range compression**（ダイナミックレンジ圧縮）オプションの横にある矢印をクリックし、最適なオプションを選択します。
9 **Back**（戻る）ボタンを一度クリックし、もう一度 **Back**（戻る）ボタンをクリックしてメインメニュー画面に戻ります。

テレビの画面設定の有効化

メモ：画面オプションが適切に表示されていることを確認するには、TV をコンピュータに接続してから画面設定を有効にします。

Microsoft Windows XP

1 **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **画面** をダブルクリックして **設定** タブをクリックします。
3 **Advanced**（詳細設定）をクリックします。
4 お使いのビデオカードのタブをクリックします。

メモ：コンピュータに取り付けられたビデオカードのタイプを確認するには、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、**スタート** → **ヘルプとサポート** をクリックします。**作業を選びます** で **ツールを使ってコンピュータ情報を表示し問題を診断する** をクリックします。次に、**マイコンピュータの情報** で **ハードウェア** を選択します。

5 表示デバイスの項で、シングルディスプレイまたはマルチディスプレイのいずれを使用するか、該当するオプションを選択し、画面設定が選択内容に対して正しいことを確認します。

Windows Vista

1 Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Control Panel**（コントロールパネル）をクリックして、**Appearance and Personalization**（デスクトップのカスタマイズ）をクリックします。
2 **Personalization**（個人設定）で、**Adjust Screen Resolution**（画面の解像度の調整）をクリックします。

   Display Properties（画面のプロパティ）ウィンドウが表示されます。
3 **Advanced**（詳細設定）をクリックします。

4 お使いのビデオカードのタブをクリックします。

メモ : コンピュータに取り付けられたビデオカードのタイプを確認するには、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。Windows Vista でヘルプとサポートセンターにアクセスするには、Windows Vista スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）とクリックします。**Pick a Task**（作業を選びます）で **Use Tools to view your computer information and diagnose problems**（ツールを使ってコンピュータ情報を表示し問題を診断する）をクリックします。次に、**My Computer Information**（マイコンピュータの情報）で **Hardware**（ハードウェア）を選択します。

5 表示デバイスの項で、シングルディスプレイまたはマルチディスプレイのいずれを使用するか、該当するオプションを選択し、画面設定が選択内容に対して正しいことを確認します。

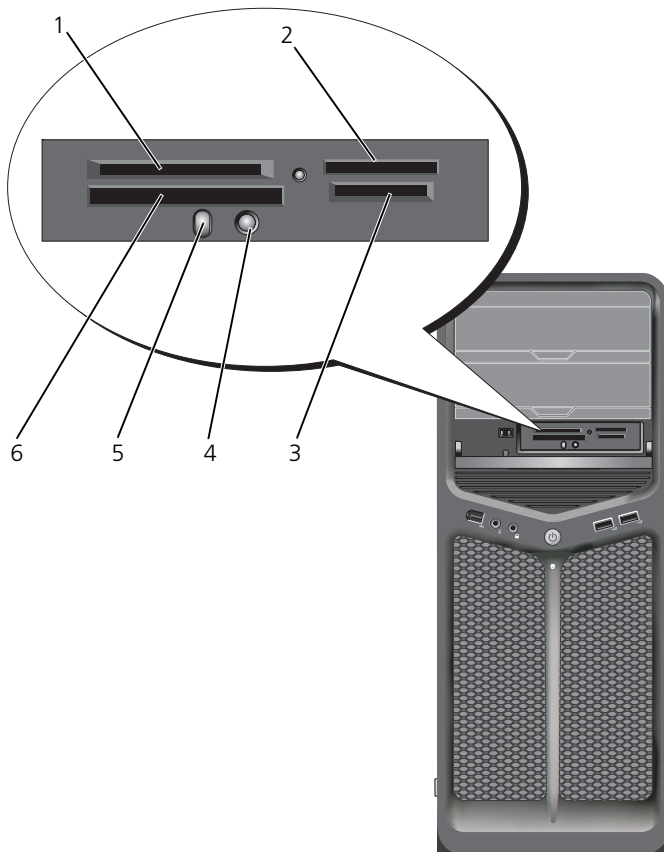
メディアカードリーダー（オプション）の使い方

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意を参照してください。

メディアカードリーダーを使用してコンピュータに直接データを転送します。メディアカードリーダーは、Bluetooth® デバイスのコンピュータとのペアリングに使用することも可能です。

メディアカードリーダーは以下の種類のメモリに対応しています。

- xD ピクチャカード
- スマートメディアカード（SMC）
- コンパクトフラッシュカード・タイプ I/II（CF I/II）
- マイクロドライブカード
- SD カード（SD）
- ミニ SD カード
- マルチメディアカード（MMC）
- 小型マルチメディアカード（RS-MMC）
- メモリースティック（MS/MS Pro/MS Duo/MS Pro Duo）

メディアカードリーダーの取り付けについては、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』で「メディアカードリーダーの取り付け」を参照してください。

1	xD ピクチャカードおよびスマートメディアカード（SMC）	2	メモリースティック（MS/MS Pro/MS Duo/MS Pro Duo）	3	SD カード（SD/ ミニ SD）/ マルチメディアカード（MMC/RS-MMC）
4	Bluetooth ペアリングボタン	5	Bluetooth LED	6	コンパクトフラッシュカード・タイプ I/II（CF I/II）およびマイクロドライブカード

1 メディアカードを点検して、正しい挿入方向を確認します。
2 メディアカードをメディアカードリーダーの正しいスロットに差し込んで、コネクタに完全に固定します。
3 スムーズに差し込むことができない場合は、カードを取り出して正しい挿入方向を確認し、やりなおしてください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジとデバイスの設定手順

1 デバイスの電源をオンにします。
2 デバイスの接続ボタンを押します。

   デバイスの Bluetooth LED が点滅します。これは、デバイスがアクティブになり、コンピュータが検出できるようになったことを示しています。

3 メディアカードリーダーの前面にある接続ボタンを押します。
4 デバイスの Bluetooth LED が点滅しなくなり、数秒間そのままの状態になります。これは、デバイスとコンピュータ間の接続が構築されたことを示します。その後、LED が消えます。

4

RAID 構成について

注意 : データを保持したままで RAID 構成を変換する移行オプションを使用するには、ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをロードする前に、そのドライブが最初にシングルドライブの RAID 0 アレイとしてセットアップされている必要があります（手順については 70 ページの「Nvidia MediaShield ROM ユーティリティの 使い方」を参照）。

この項では、ご購入時に RAID 構成を選択されたユーザーを対象に、RAID 構成の概要について説明します。一般に、RAID 構成には用途によって異なるさまざまなタイプがあります。お使いのコンピュータは、RAID レベル 0 および RAID レベル 1 をサポートしています。RAID レベル 0 構成は高いパフォーマンスが要求されるプログラムを使用する場合に、また RAID レベル 1 は高水準のデータ保全性が必要な場合に、お勧めします。

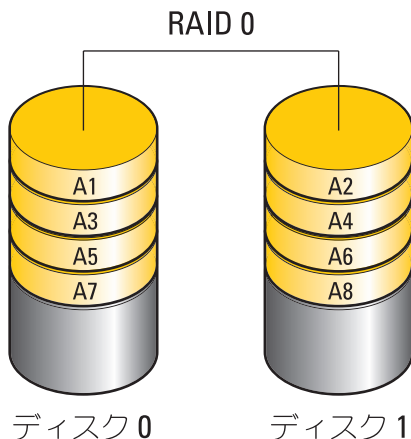
メモ : RAID レベルは、性能による序列を示すものではありません。言い換えると、RAID レベル 1 構成と RAID レベル 0 構成との間に、質的な優劣はありません。

容量が大きいほうのドライブに未割り当ての（つまり使用できない）領域が生じないようにするために、同じサイズのドライブを使用して RAID を構成することが必要です。

RAID 0 と RAID 1 には、最低 2 台のドライブが必要です。

RAID レベル 0 構成

注意 : RAID レベル 0 構成ではデータの冗長性がないため、いずれかのドライブに障害が発生すると、すべてのデータが失われます。RAID レベル 0 構成を使用している場合にデータを保護するには、定期的にバックアップを行ってください。

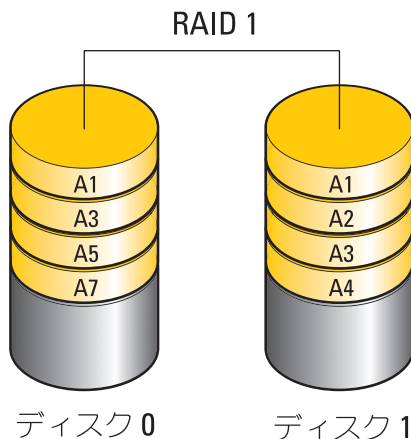
RAID レベル 0 は、データストライピングというストレージ技術を使用して、データのアクセス速度を速めます。データストライピングは、連続するデータセグメント（ストライプ）を複数の物理ドライブに順次書き込むことで、大容量の仮想ドライブとして扱う方法です。データストライピングを使うと、1 つのドライブでデータを読み出している間に、別のドライブで次のブロックを探しながら読み出すことができます。

RAID レベル 0 のもう 1 つの利点は、ドライブの最大ストレージ容量を利用できることです。たとえば、120 GB のハードディスクドライブ 2 台を使用すれば、データの保存に合計 240 GB のハードディスクドライブスペースが使えます。

 メモ : RAID レベル 0 構成では、構成のサイズは、最小ドライブサイズに、その構成内のドライブの台数を掛けた値になります。

RAID レベル 1 構成

RAID レベル 1 では、データの冗長性を持たせたミラーリングと呼ばれるストレージ技術を使用して、データ保全性を高めます。プライマリドライブに書き込まれたデータは、RAID を構成する他のドライブにも複製、つまりミラーリングされます。RAID レベル 1 は、高速データアクセスを犠牲にして、データの冗長性の利点を重視しています。

ドライブが故障すると、その後の読み出し / 書き込み動作は、正常に動作しているドライブで行われます。交換用のドライブは、正常に動作しているドライブを使ってデータを再構築することができます。

 メモ : RAID レベル 1 構成のサイズは、構成内の最小ドライブのサイズと等しくなります。

ハードディスクドライブを RAID に設定する方法

コンピュータの購入時に RAID 構成を選ばなかった場合でも、コンピュータを RAID 構成にすることができます。RAID のレベルとその要件の説明については、67 ページの「RAID 構成について」を参照してください。ハードディスクドライブの取り付け方法については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「ハードディスクドライブの取り付け」を参照してください。

RAID ハードディスクドライブボリュームを構成する手順には 2 種類あります。1 つは Nvidia MediaShield ROM ユーティリティを使用する方法で、ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをインストールする前に実行します。2 つ目は Nvidia MediaShield を使用する方法で、オペレーティングシステムと Nvidia RAID ドライバをインストールした後で実行します。

どちらの方法を使う場合も、最初にお使いのコンピュータを RAID 有効モードに設定しておく必要があります。

コンピュータを RAID 有効モードに設定する方法

1 セットアップユーティリティを起動します（79 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
2 上下矢印キーを押して **Drives**（ドライブ）をハイライト表示し、<Enter> を押します。
3 上下矢印キーを押して適切な SATA ドライブをハイライト表示し、<Enter> を押します。
4 左右矢印キーを押して **RAID On**（RAID オン）をハイライト表示し、<Enter> を押します。各 SATA ハードディスクドライブに対して、必要に応じてこの手順を繰り返します。

   メモ : RAID オプションの詳細については、81 ページの「セットアップオプション」を参照してください。

5 <Esc> を押し、左右矢印キーを押して **Save/Exit**（保存 / 終了）をハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップユーティリティを終了し、起動プロセスを再開します。

Nvidia MediaShield ROM ユーティリティの使い方

注意 : 次の手順を実行すると、ハードディスクドライブ上のすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。

メモ : 既存の RAID 構成を移行する場合には、次の手順は使わないでください（73 ページの「RAID 構成の変換」を参照）。

RAID 構成の構築には、どんな容量のハードディスクでも使用できます。ただし、未割り当てまたは未使用の領域が生じないようにするために、同じ容量のドライブを使用することが理想的です。RAID のレベルとその要件の説明については、67 ページの「RAID 構成について」を参照してください。ハードディスクドライブの取り付け方法については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』で「ハードディスクドライブの取り付け」を参照してください。

1 お使いのコンピュータ上の該当する各ハードディスクドライブで、RAID を有効にします（70 ページの「コンピュータを RAID 有効モードに設定する方法」を参照）。
2 コンピュータを再起動します。

3 RAID BIOS の起動を求めるプロンプトが表示されたら、<Ctrl> と <N> を押します。

 メモ： オペレーティングシステムのロゴが表示された場合は、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるのを待って、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

Define a New Array（新しいアレイの定義）ウィンドウが表示されます。

4 <Tab> を押して **RAID Mode**（RAID モード）フィールドに移動します。

RAID 0 構成を作成するには、矢印キーを使用して **Striping**（ストライピング）を選択します。

RAID 1 構成を作成するには、矢印キーを使用して **Mirroring**（ミラーリング）を選択します。

5 <Tab> を押して **Free Disks**（空きディスク）フィールドに移動します。

6 上下の矢印キーを使用して、RAID アレイに含めるハードディスクドライブを選択し、次に右矢印キーを使用して、選択したドライブを **Free Disks**（空きディスク）フィールドから **Array Disks**（アレイディスク）フィールドに移動します。RAID アレイに含める各ディスクについて、この手順を繰り返します。

メモ： お使いのコンピュータでは、RAID 1 アレイあたり最大 2 台、RAID 0 アレイあたり最大 4 台のドライブをサポートしています。

7 ハードディスクドライブをアレイに割り当てたら、<F9> を押します。

Clear disk data（ディスクデータの消去）プロンプトが表示されます。

注意： 次の手順で、選択したドライブ上のデータがすべて消去されます。

8 選択したドライブからすべてのデータを消去するには、<Y> を押します。

Array List（アレイの一覧）ウィンドウが表示されます。

9 セットアップしたアレイの詳細を確認するには、矢印キーを使用して **Array Detail**（アレイの詳細）ウィンドウ内のアレイをハイライト表示し、<Enter> を押します。

Array Detail（アレイの詳細）ウィンドウが表示されます。

メモ： アレイを削除するには、矢印キーを使用してアレイを選択し、<D> を押します。

10 <Enter> を押すと、前の画面に戻ります。

11 RAID BIOS を終了するには、<Ctrl> と <X> を押します。

Nvidia MediaShield の使い方

Nvidia MediaShield を使用して、RAID 構成を作成、表示、管理することができます。

メモ : 1 台または複数のハードディスクドライブを既存の（非 RAID）シングルドライブコンピュータに追加して、新しいドライブを RAID アレイ内に構成する場合にのみ、Nvidia MediaShield を使用して RAID 構成を作成してください。

Nvidia MediaShield を使用する RAID 構成の構築には、どんな容量のハードディスクドライブでも使用できます。ただし、未割り当てまたは未使用の領域が生じないようにするために、同じ容量のドライブを使用することが理想的です。RAID のレベルとその要件の説明については、67 ページの「RAID 構成について」を参照してください。

RAID アレイの作成

注意 : 次の手順を実行すると、ハードディスクドライブ上のすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。

メモ : 既存の RAID 構成を移行する場合には、次の手順は使わないでください（73 ページの「RAID 構成の変換」を参照）。

1 ハードディスクドライブの RAID を有効にします（70 ページの「コンピュータを RAID 有効モードに設定する 方法」を参照）。

2 コンピュータを再起動した後で、Nvidia MediaShield を起動します。

3 **System Tasks**（システムタスク）で **Create**（作成）をクリックします。

   NVIDIA Create Array Wizard（NVIDIA アレイ作成ウィザード）が表示され、構成に利用できるディスクを一覧表示します。

4 **Next**（次へ）をクリックします。

5 **Custom**（カスタム）をクリックし、**Next**（次へ）をクリックします。

6 ドロップダウンボックスから **ストライピング**（RAID 0）、または **ミラーリング**（RAID 1）を選択します。

7 **Next**（次へ）をクリックします。

   Free Disk Selection（空きディスクの選択）ウィンドウが表示されます。

   メモ : RAID が有効なハードディスクドライブのみが空きディスクとして表示されます。

8 RAID を構成するドライブをクリックして選択し、**Next**（次へ）をクリックし、もう一度 **Next**（次へ）をクリックします。

   メモ : お使いのコンピュータでは、RAID 1 アレイあたり最大 2 台、RAID 0 アレイあたり最大 4 台のドライブをサポートしています。

   Clearing System Data（システムデータの消去）ウィンドウが表示されます。

注意 : Clear System Data（システムデータの消去）オプションを選択すると、選択したドライブ上のすべてのデータが削除されます。

9 **Next**（次へ）をクリックします。

10 **Finish**（終了）をクリックして、RAID 構成を作成します。

MediaShield RAID 管理ユーティリティのウィンドウが表示され、取り付けられている他のハードディスクドライブとともにアレイを一覧表示します。

RAID アレイの削除

メモ : この手順では、RAID 1 ボリュームを削除しますが、RAID 1 ボリュームをパーティションで 2 つの非 RAID ハードディスクドライブに分割し、既存のデータファイルをそのまま残します。ただし、RAID 0 ボリュームを削除すると、ボリューム上のすべてのデータが消去されます。

メモ : コンピュータが現在 RAID から起動している場合は、RAID ボリュームを削除すると起動できなくなります。

1 Nvidia MediaShield を起動します。

2 削除するアレイをクリックして選択します。

3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで **Delete Array**（アレイの削除）をクリックします。

NVIDIA Delete Array Wizard（NVIDIA アレイ削除ウィザード）が表示されます。

4 **Next**（次へ）をクリックします。

削除のマークを付けたアレイの名前とサイズを示す確認画面が表示されます。

5 **Finish**（終了）をクリックすると、RAID 構成が削除されます。

MediaShield RAID 管理ユーティリティのウィンドウが表示され、取り付けられているその他のハードディスクドライブとともに残りのアレイを一覧表示します。

RAID 構成の変換

注意 : データを保持したままで RAID 構成を変換する移行オプションを使用するには、ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをロードする前に、そのドライブが最初にシングルドライブの RAID 0 アレイとしてセットアップされている必要があります（手順については 70 ページの「Nvidia MediaShield ROM ユーティリティの 使い方」を参照）。

Nvidia MediaShield では、移行と呼ばれるシングルステップの手順で、データを失うことなく、ディスクまたはアレイの現在の状態を変更できます。必要に応じて、シングルドライブの RAID 0 構成を含めて、既存のアレイにハードディスクドライブを追加して、ドライブ 2 台の RAID 0 構成に変換することができます。ただし、出来上がるアレイの容量は、元の構成に等しいか、またはそれを上回る必要があります。

移行処理では、RAID 0 から RAID 1 への変換は実行できません。

注意：移行によってできるアレイで使用する追加のハードディスクドライブは、現在の構成で使用しているどのドライブよりも容量が大きいか、または等しいものを使用してください。

メモ：RAID 構成で使用するすべてのドライブが RAID 対応モードになっていることを確認します（70 ページの「コンピュータを RAID 有効モードに設定する 方法」を参照）。

1 Nvidia MediaShield を起動します。
2 変換するアレイをクリックして選択します。
3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで **Convert Array**（アレイの変換）をクリックします。

   NVIDIA Convert Array Wizard（NVIDIA アレイ変換ウィザード）が表示されます。
4 **Next**（次へ）をクリックします。
5 **RAID Mode Selection**（RAID モードの選択）で、ドロップダウンメニューから **Mirroring**（ミラーリング）または **Striping**（ストライピング）を選択します。
6 **Next**（次へ）をクリックします。

注意：次の手順で、選択したドライブ上のデータがすべて消去されます。

7 **Free Disk Selection**（空きディスクの選択）で、横のチェックボックスをクリックして、移行によって作成するアレイに含めるハードディスクドライブを選択します。
8 **Finish**（終了）をクリックします。

   MediaShield RAID 管理ユーティリティのウィンドウが表示され、取り付けられている他のハードディスクドライブとともに、アップグレードまたは移行プロセスの状態が表示されます。

   メモ：アレイが変換されるまでの所要時間は、CPU の速度、使用するハードディスクドライブの種類とサイズ、オペレーティングシステムなど、いくつかの要因によって左右されます。

RAID 構成の再構築

RAID アレイ内のハードディスクドライブの 1 台に障害が発生した場合は、交換用ドライブにデータを復元することで、アレイを再構築できます。

メモ：アレイの再構築は、RAID 1 構成でのみ実行できます。

1 Nvidia MediaShield を起動します。
2 管理ユーティリティウィンドウで、お使いの RAID 構成（**Mirroring**（ミラーリング））をクリックして選択します。

3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで、**Rebuild Array**（アレイの再構築）を選択します。

   NVIDIA Rebuild Array Wizard（NVIDIA アレイ再構築ウィザード）が表示されます。

4 **Next**（次へ）をクリックします。

5 横のチェックボックスをクリックして、再構築するハードディスクドライブを選択します。

6 **Next**（次へ）をクリックします。

7 **Finish**（終了）をクリックします。

   MediaShield RAID 管理ユーティリティウィンドウが表示され、再構築プロセスの状態を表示します。

メモ : コンピュータはアレイの再構築中も使用できます。

メモ : アレイの再構築には、利用可能な（RAID 有効モードの）空きディスクをどれでも使用できます。

5

コンピュータのクリーニング

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータ、キーボード、およびモニタ

警告 : コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外します。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- 掃除機のブラシ、または圧縮空気の缶スプレーを使って、コンピュータのスロット部分や穴の開いている部分、およびキーボード上のキーの間のゴミを取り除きます。

注意 : モニタ画面を石鹸またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷する恐れがあります。

- モニタ画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング用ティッシュまたはモニタの帯電防止コーティングに適した溶液を使ってください。

注意 : この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

- 水で軽く湿らした柔らかいクリーニング布を使用して、キーボード、コンピュータ、およびモニタのプラスチック部分を拭きます。

マウス（非オプティカル）

1 マウスの底部にある固定リングを左に回し外します。ボールを取り出します。
2 清潔な、糸くずの出ない布でボールを拭き取ります。
3 ボールが入っているケージ内のほこりや糸くずを注意深く吹き飛ばします。
4 ボールケージの中にあるローラーをイソプロピルアルコールを軽く含ませた綿棒で汚れを拭き取ります。
5 必要に応じて、ローラーを溝の中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
6 ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

フロッピードライブ

注意 : ドライブヘッドを綿棒でクリーニングしないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットでフロッピードライブをクリーニングします。これらのキットには、通常の使用時にドライブヘッドに付いた汚れを落とすように前処理されたフロッピーディスクが入っています。

CD および DVD

注意 : CD/DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合、ディスクを掃除します。

1 ディスクの外側の縁を持ちます。中心の穴の縁にも触ることができます。

注意 : 円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷を付ける恐れがあります。

2 柔らかく、糸くずの出ない布でディスクの裏側（ラベルのない側）を中央から外側の縁に向かって放射状にそっと拭きます。

頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹸の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーナーは DVD にも使用できます。

6

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- コンピュータに対してハードウェアの取り付け、変更、取り外しを行った後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどユーザー選択可能オプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードディスクドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを使用する前に、システム設定画面の情報を控えておくことをお勧めします。

注意 : コンピュータの操作に詳しい方以外は、セットアップユーティリティの設定を変更しないことをお勧めします。設定を間違えるとコンピュータが正常に動作しなくなる可能性があります。

セットアップユーティリティの起動

1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2 DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

メモ : キーボードのキーを長時間押したままにすると、キーボードエラーが発生する場合があります。キーボードエラーを回避するには、セットアップユーティリティの画面が表示されるまで、<F2> を押して放す操作を等間隔で行ってください。

キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面には、お使いのコンピュータの現在の設定または変更可能な設定の情報が表示されます。画面の情報は、メニューフィールド、オプションリスト、アクティブなオプションのフィールド、ヘルプフィールド、およびキー操作の 5 つの領域に分かれています。

Menu（メニュー）— セットアップユーティリティウィンドウの最上部に表示されます。このフィールドには、セットアップユーティリティオプションにアクセスするためのメニューが用意されています。**<←>** キーと **<①⬀>** キーを押して移動します。**Menu**（メニュー）オプションをハイライト表示すると、お使いのコンピュータに取り付けられたハードウェアを定義するオプションが **Options List**（オプションリスト）に表示されます。

Options List（オプションリスト）— セットアップユーティリティウィンドウの左側に表示されます。このフィールドには、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションが表示されます。

上下矢印キーを使用して、リストを上下にスクロールします。オプションをハイライト表示すると、そのオプションの現在の設定および利用可能な設定が **Options Field**（オプションフィールド）に表示されます。

Options Field（オプションフィールド）— **Options List**（オプションリスト）の右側に表示されます。**Options List**（オプションリスト）に表示された各オプションの情報を示します。このフィールドでは、お使いのコンピュータに関する情報を表示したり、現在の設定を変更したりできます。

現在の設定を変更するには、<Enter> を押します。**Options List**（オプションリスト）に戻るには、<ESC> を押します。

メモ： Options Field（オプションフィールド）に表示されている設定には、変更できないものもあります。

Help（ヘルプ）— セットアップユーティリティの右側に表示されます。**Options List**（オプションリスト）で選択したオプションの情報を示します。

Key Functions（キー操作）— **Options Field**（オプションフィールド）の下に表示されます。アクティブなセットアップユーティリティフィールドのキーとその機能を一覧表示します。

セットアップオプション

メモ： お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによっては、この項に一覧表示された項目と異なる場合があります。

Main	
System Info	システムモデル名を表示します。
BIOS Info	BIOS のリビジョンを表示します。
Service Tag	システムのサービスタグを表示します。
Express Service Code	エクスプレスサービスコードを表示します。
Asset Tag	管理タグを表示します。
Date	システム日付を表示します。
Time	システム時刻を表示します。
Memory Installed	合計メモリサイズを表示します。
Memory Available	システム内の利用可能なメモリを表示します。
Memory Speed	メモリの速度を表示します。
Memory Channel Mode	メモリチャネルモードを表示します。 • Single（シングル） • Dual（デュアル）
Memory Technology	システムで使用するメモリのタイプを表示します。
Processor Type	プロセッサタイプを表示します。
Processor Speed	プロセッサの速度を表示します。
Processor L2 cache	プロセッサの L2 キャッシュサイズを表示します。

Advanced	
CPU Feature	システムのパフォーマンスを拡張する CPU 機能を有効または無効にできます。
Integrated Peripherals	システムに搭載されたデバイスおよびポートを有効または無効にできます。
IDE/SATA Configuration	ハードディスクドライブやオプティカルドライブなど、コンピュータに接続している IDE または SATA デバイスに関連する値に対する、ユーザーによる定義または変更を有効または無効にします。
Overclock Configuration	このオプションを選択すると、システムクロックモードを設定できます。
Overvoltage configuration	このオプションを選択すると、CPU コアの電圧、FSB、メモリ電圧、およびチップセット電圧の設定が可能になります。

Security	
Supervisor Password Is	スーパーバイザーパスワードが割り当てられているかどうかを指定します。
User Password Is	ユーザーパスワードが割り当てられているかどうかを指定します。
Set Supervisor Password	スーパーバイザーパスワードの設定を可能にします。
Set User Password	ユーザーパスワードの設定を可能にします。POST 実行中は、ユーザーパスワードを使用して BIOS セットアップに入ることはできません。

Power	
ACPI Suspend Type	ACPI サスペンドタイプを指定します。デフォルトは S3 です。
AC Recovery	停電から回復した後のシステムの動作を指定します。 • On（オン）— 電源障害から回復した後でコンピュータをオンにします。 • Off（オフ）— コンピュータの電源をオフのままにします。 • Last（直前の状態）— コンピュータを電源障害の発生前と同じ電源状態に戻します。
Remote Wake Up	このオプションを選択すると、ユーザーが LAN を介してコンピュータにアクセスしようとすると、コンピュータの電源がオンになります。
Wake-Up By Ring	このオプションを選択すると、モデムで着信コールが検出されたときに、コンピュータの電源がオンになります。
Auto Power On	コンピュータの電源を自動的にオンにするアラームの設定が可能になります。

Boot	
Removable Device Priority	接続されたリムーバブルデバイスの間で起動優先度を設定します。
Hard Disk Boot Priority	ハードディスクドライブの起動優先度を設定します。表示される項目は、検出されるハードディスクドライブにしたがって動的に表示されます。
1st Boot Device through 3rd Boot Device	起動デバイスの順序を設定します。コンピュータに接続された起動可能なデバイスだけが、オプションとして一覧表示されます。
Boot Other Device	このオプションを選択すると、メモリキーなどの他のデバイスから起動できるようになります。

Exit	
Exit Options	**Exit Saving Changes**（変更を保存して終了）、**Exit Discarding Changes**（変更を破棄して終了）、**Load Setup Default**（セットアップデフォルトの読み込み）、および **Discard Changes**（変更を破棄）のオプションがあります。

起動順序

この機能を使用すると、コンピュータに取り付けられている起動可能なデバイスの起動順序を変更することができます。

オプション設定

- **Diskette Drive**— コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、フロッピーディスクがドライブにない場合、またはコンピュータにフロッピードライブが取り付けられていない場合、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **Hard Drive** — コンピュータはプライマリハードディスクドライブからの起動を試みます。そのドライブ上にオペレーティングシステムが存在しない場合は、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **CD Drive**— コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。そのドライブに CD が挿入されていない場合、または CD にオペレーティングシステムが含まれていない場合、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **USB Flash Device** — USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上隅に `F12 = Boot Menu`（起動メニュー）と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB flash オプションを起動メニューに追加します。

メモ : USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

メモ : コンピュータが起動順序内のすべてのデバイスからの起動を試み、オペレーティングシステムが見つからなかった場合にのみ、エラーメッセージが生成されます。

一回のみの起動順序の変更

この機能を使って、たとえば、『Drivers and Utilities』メディアにある Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行するように CD ドライブからコンピュータを起動し、Dell Diagnostics（診断）プログラムが完了したらハードディスクドライブから起動するように設定できます。また、フロッピードライブ、メモリキー、CD RW ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動するときにもこの機能を使用できます。

メモ : USB フロッピードライブから起動する場合、セットアップユーティリティでフロッピードライブを **OFF** にする必要があります（79 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。

1 USB デバイスから起動するときは、USB デバイスを USB コネクタに接続します（17 ページの「コンピュータの背面図」を参照）。
2 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
3 DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ：キーボードのキーを長時間押したままにすると、キーボードエラーが発生する場合があります。キーボードエラーを回避するには、**起動デバイスメニュー**が表示されるまで、<F12> を押して放す操作を等間隔で行ってください。

キーを押すタイミングが遅れてオペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまでそのまま待機し、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。

4 **起動デバイスメニュー** で、上下の矢印キーを使用するか、キーボードの適切な数字キーを押して、今回の起動のみに使用するデバイスをハイライト表示し、<Enter> を押します。

たとえば、USB メモリキーから起動する場合は、**USB Flash Device**（USB フラッシュデバイス）をハイライト表示して <Enter> を押します。

メモ：USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

次回からの起動順序の変更

1 セットアップユーティリティを起動します（79 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
2 矢印キーを使って **起動順序** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してポップアップメニューにアクセスします。

メモ：後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書き留めておきます。

3 デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4 スペースバーを押して、デバイスを有効または無効にします
5 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス（+）またはマイナス（–）を押します。

7

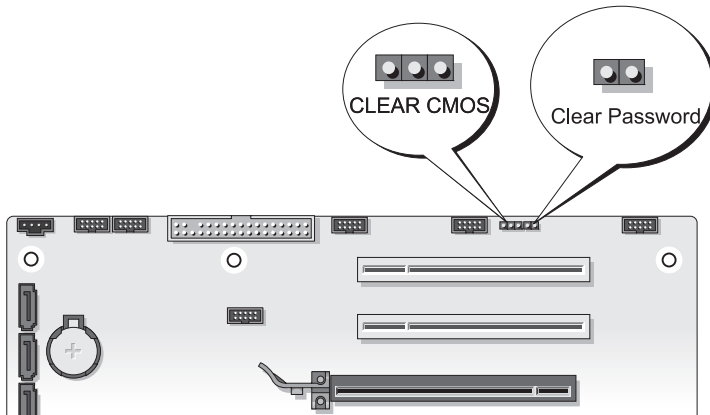
パスワードと CMOS 設定をクリアするには

パスワードのクリア

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

1 デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 コンピュータカバーを取り外します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。

3 システム基板の 2 ピンパスワードコネクタの位置を確認します。

4 ピンから 2 ピンジャンパプラグを取り外し、保管しておきます。

5 コンピュータカバーを取り付けます（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

6 キーボードとマウスを接続してから、コンピュータとモニタをコンセントに接続して電源を入れます。

Microsoft® Windows® デスクトップがお使いのコンピュータに表示された後、コンピュータの電源を切ります。

メモ : コンピュータの電源が切れているか、またコンピュータが省電力モードになっていないかを確認してください。オペレーティングシステムを使ってコンピュータをシャットダウンできない場合は、電源ボタンを 4 秒間押し続けてください。

7 キーボードとマウスを取り外し、コンピュータとモニタをコンセントから外します。

8 コンピュータの電源ボタンを押して、システム基板の電気を逃がします。

9 コンピュータカバーを取り外します。

10 システム基板のパスワードコネクタのピンに 2 ピンジャンパプラグを取り付けます。

メモ : パスワード機能を有効にするには、パスワードジャンパピンにパスワードジャンパプラグを取り付ける必要があります。

11 コンピュータカバーを取り付けます。

注意 : ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

メモ : セットアップユーティリティで（79 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、システムパスワードと管理者パスワードのオプションがどちらも**未設定**になっていることを確認します。パスワード機能は有効になっていますが、パスワードが設定されていません。

CMOS 設定のクリア

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1 デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

メモ : CMOS 設定をクリアするには、コンピュータをコンセントから外しておく必要があります。

2 コンピュータカバーを取り外します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。

3 システム基板の 3 ピン CMOS ジャンパの位置を確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「システム基板のコンポーネント」を参照）。

4 3 ピンジャンパプラグを 3 番ピンと 2 番ピンから 1 番ピンと 2 番ピンに移動します。

5 CMOS がクリアされるまで約 5 秒待ちます。

6 2 ピンジャンパプラグを 3 番ピンと 2 番ピンに戻します。

7 コンピュータカバーを取り付けます（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。

注意 : ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

8 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

フラッシュ BIOS

BIOS は、アップデートが利用可能な場合やシステム基板を交換する場合にフラッシュを行なう必要があります。

1 コンピュータの電源を入れます。

2 お使いのコンピュータの BIOS アップデートファイルをデルサポートサイト **support.jp.dell.com** で検索してください。

3 **Download Now**（今すぐダウンロード）をクリックしてファイルをダウンロードします。

4 **Export Compliance Disclaimer**（輸出に関するコンプライアンスの免責事項）ウィンドウが表示されたら、**Yes, I Accept this Agreement**（同意します）をクリックします。

   File Download（ファイルのダウンロード）ウィンドウが表示されます。

5 **Save this program to disk**（このプログラムをディスクに保存する）をクリックし、**OK** をクリックします。

   Save In（保存先）ウィンドウが表示されます。

6 下矢印をクリックして **Save In**（保存先）メニューを表示し、**Desktop**（デスクトップ）を選択して **Save**（保存）をクリックします。

   ファイルがデスクトップにダウンロードされます。

7 **Download Complete**（ダウンロードの完了）ウィンドウが表示されたら、Close（閉じる）をクリックします。

   デスクトップにファイルのアイコンが表示され、そのファイルにはダウンロードした BIOS アップデートファイルと同じ名前が付いています。

8 デスクトップ上のファイルのアイコンをダブルクリックし、画面の指示に従います。

8

トラブルシューティングツール

電源ライト

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータの前面にある電源ボタンライトは、以下のさまざまな動作状態を示します。

- 電源ライトが白色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合、92 ページの「ビープコード」を参照してください。
- 電源ライトが白色に点滅している場合、コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたり、電源ボタンを押したりすると、通常の動作が再開されます。
- 電源ライトが消灯している場合は、コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。
  - 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
  - コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され、その電源タップがオンになっていることを確認します。
  - 電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
  - 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
  - 主電源ケーブルおよび前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているかを確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「システム基板のコンポーネント」を参照）。
- 電気的な妨害を解消します 電気的な妨害の原因には、次のものがあります。
  - 電源、キーボード、およびマウス拡張ケーブル
  - 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
  - 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

コンピュータの背面にある電源装置診断 LED は、以下のさまざまな状態を示します。電源装置をテストするには、電源装置テストスイッチを押してください。

- 電源装置診断 LED が緑の場合、電源装置の電力を使用できます。
- 電源装置診断 LED が消灯している場合、以下の原因が考えられます。
  - 電源装置に電力が供給されていない — 主電源ケーブルがシステム基板に接続されているか確認します。
  - 電源が機能していない — 電力が十分に供給されていないか、デバイスが電源に接続されていない場合に発生します。

  この問題を解決するには、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、お使いのコンピュータの問題を特定するのに役立てるために使用できます。

お使いのコンピュータの起動時に、ビープ音が連続して鳴ることがあります。

1 ビープコードを書き留めます。
2 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行し、その原因をつきとめます（97 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

コード（連続する短いビープ音）	説明	推奨する改善策
1	BIOS チェックサム障害。マザーボード障害の可能性。	デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
2	メモリモジュールが検出されません。	• 2 つ以上のモジュールが取り付けられている場合、モジュールを全て取り外し（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』で「メモリの取り外し」を参照）、その後 1 つのモジュールを取り付け（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』で「メモリの取り付け」を参照）てから、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、障害のあるモジュールを確認するか、またはエラーが発生しないままですべてのモジュールを取り付けなおすまで、残りのメモリモジュールを 1 つずつ追加していきます。 • 正常に動作している同じ種類のメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「メモリ」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

コード（連続する短いビープ音）	説明	推奨する改善策
3	チップセットエラー。	デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
	時刻機構停止障害。	• バッテリを交換します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の 『サービスマニュアル』の「バッテリの交換」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
	ゲート A20 障害。マザーボード障害の可能性。	デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
	スーパー I/O チップ障害。マザーボード障害の可能性。	デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
	キーボードコントローラテスト障害。キーボード障害の可能性。	• ケーブルが正しく接続されているか確認します。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
4	RAM 書き込み / 読み取り障害。	• 特別なメモリモジュール / コネクタ設置要件がないか確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「メモリ」を参照）。 • 使用するメモリがお使いのコンピュータでサポートされていることを確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「メモリ」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

コード（連続する短いビープ音）	説明	推奨する改善策
5	RTC 電源障害。 CMOS バッテリ障害の可能性。	• バッテリを交換します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「バッテリの交換」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
6	ビデオ BIOS テスト障害。	デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
7	CPU キャッシュテスト障害。	デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

システムメッセージ

メモ : 受け取ったメッセージがリストにない場合は、メッセージが表示されたときに実行されていたオペレーティングシステムまたは、プログラムのマニュアルを参照してください。

警告。このシステムの前回の起動時に、チェックポイント [NNNN] で障害が発生しました。この問題を解決するには、このチェックポイントをメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください —同じエラーによって、コンピュータは 3 回連続して起動ルーチンを終了できませんでした（サポートを受けるには 139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

CMOS チェックサムエラー —マザーボードの障害または RTC バッテリ低下の可能性。バッテリを交換します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** 『サービスマニュアル』の「バッテリの交換」、または参考のために 139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

CPU ファン障害 —CPU ファン障害 CPU ファンを交換します（デルサポートウェブサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「プロセッサヒートシンクの取り外し」を参照）。

ディスケットドライブ 0 シーク障害 —ケーブルが緩んでいるか、コンピュータ設定情報がハードウェア設定と一致していない可能性があります。ケーブルの接続を確認します（参考のために 139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ディスケットサブシステムリセット障害 —フロッピーディスクコントローラ障害の可能性。

ディスケット読み取り障害 —フロッピーディスクが不良であるか、またはケーブルが緩んでいる可能性があります。フロッピーディスクと交換するか / 緩んだケーブル接続を確認します

ハードディスクドライブ読み取り障害 —ハードディスクドライブ起動テスト中にハードディスクドライブ障害が発生した可能性があります（サポートを受けるには 139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ハードディスクドライブ障害 —Power-on Self test （POST）中にハードディスクドライブ障害が発生した可能性があります。ハードディスクドライブを交換します（参考のために 139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

キーボード障害 —キーボードに障害があるか、またはキーボードケーブルが緩んでいる可能性があります（105 ページの「キーボードの問題」を参照）。

起動デバイスがありません —システムが、起動可能なデバイスまたはパーティションを見つけられません。

- フロッピードライブが起動デバイスの場合、ケーブルが接続されているか、起動可能なフロッピーディスクがドライブに挿入されているかを確認します。
- ハードディスクドライブが起動デバイスの場合、ケーブルがドライブに適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されていることを確認します。
- セットアップユーティリティを起動して、起動順序の情報が正しいか確認します（79 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。

タイマーチック割り込み信号がありません — システム基板上のチップが誤動作しているかまたはシステム基板障害の可能性があります（サポートを受けるには 139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

非システムディスクまたはディスクエラーです —起動オペレーティングシステムの入ったフロッピーディスクと交換するか、ドライブ A からそのフロッピーディスクを取り出してコンピュータを再起動します。

非起動用ディスケットです — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

USB 過電流エラー — USB デバイスを交換します。

注意 - ハードディスクドライブの自己監視システムには、パラメーターが通常の動作範囲を超えていることがレポートされています。デルではデータを定期的にバックアップすることをお勧めしています。範囲外のパラメーターは、潜在的なハードディスクドライブの問題を示す場合とそうでない場合があります —S.M.A.R.T.（Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology）ハードディスクドライブ障害の可能性を示すエラーです。この機能は BIOS 設定で有効または無効にできます。

ハードウェアに関するトラブルシューティング

デバイスが OS のセットアップ中に検知されない、または、検知されても設定が正しくない場合は、ハードウェアに関するトラブルシューティングを利用して非互換性の問題を解決できます。

Windows XP：

1 **スタート** → **ヘルプとサポート** をクリックします。
2 検索フィールドに `hardware troubleshooter`（ハードウェアに関するトラブルシューティング）と入力し、<Enter> を押して検索を開始します。
3 **問題を解決する** セクションで、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4 **ハードウェアに関するトラブルシューティング** の一覧で、問題を適切に示すオプションを選択し、**次へ** をクリックしてトラブルシューティングの残りの手順に従います。

Windows Vista：

1 Windows Vista スタートボタン ™ をクリックして、**Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。
2 検索フィールドに、`hardware troubleshooter` と入力し、<Enter> を押して検索を開始します。
3 検索結果のうち、問題を最もよく表しているオプションを選択し、残りのトラブルシューティング手順に従います。

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、デルテクニカルサポートに問い合わせる前に、「フリーズおよびソフトウェアの問題」のチェック事項（105 ページの「フリーズおよびソフトウェアの問題」を参照）を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意：Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

メモ：『Drivers and Utilities』メディアはオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

79 ページの「セットアップユーティリティ」を参照して、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムは、ハードディスクドライブまたはお使いのコンピュータに付属する『Drivers and Utilities』メディアから起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムをハードディスクドライブから起動する場合

Dell Diagnostics（診断）プログラムは、ハードディスクドライブの診断ユーティリティ用隠しパーティションに格納されています。

デスクトップコンピュータ

メモ : コンピュータの画面に画像が表示されない場合は、139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

1 コンピュータが、正確に動作することが確認されているコンセントに接続されていることを確かめます。

2 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

3 DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。起動メニューから **Diagnostics**（診断）を選択し、<Enter> を押します。

   メモ : キーを押すタイミングが遅れて、OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして再度試します。

   メモ : 診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、『Drivers and Utilities』メディアから Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。

4 任意のキーを押すと、ハードディスクドライブ上の診断プログラムユーティリティパーティションから Dell Diagnostics（診断）プログラムが起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを Drivers and Utilities メディアから起動する場合

1 『Drivers and Utilities』メディアを挿入します。

2 コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

   DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

   メモ : キーを押すタイミングが遅れて、OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして再度試します。

   メモ : 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

3 起動デバイスの一覧が表示されたら、**CD/DVD/CD-RW** をハイライト表示して <Enter> を押します。

4 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選択し、<Enter> を押します。

5 1 を入力して、CD のメニューを開始し、<Enter> を押して続行します。

6 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選びます。複数のバージョンがリストにある場合は、コンピュータに適切なバージョンを選択します。

7 Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu** が表示されたら、実行するテストを選びます。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1 Dell Diagnostics（診断）プログラムがロードされ **Main Menu** 画面が表示されたら、希望のオプションのボタンをクリックします。

メモ : Test System を選択して、コンピュータの完全なテストを実行するすることをお勧めします。

オプション	機能
Test Memory	スタンドアロンメモリのテストを実行
Test System	システムの Diagnostics（診断）を実行
Exit	Diagnostics（診断）の終了

2 メインメニューから **Test System** オプションを選択すると、次のメニューが表示されます。

メモ : コンピュータのデバイスの完全なチェックを実行する場合は、**Extended Test** を選択することをお勧めします。

オプション	機能
Express Test	システムデバイスのクイックテストを実行します。このテストは通常 10 〜 20 分かかります。
Extended Test	システムデバイスの完全なチェックを実行します。このテストは通常 1 時間以上かかる可能性があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストしたり、実行するテストをカスタマイズする場合に使用します。
Symptom Tree	このオプションでは、発生している問題の症状に基づいたテストを選択できます。このオプションは、最も一般的な症状を一覧表示します。

3 テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を書き留め、139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

メモ : お使いのコンピュータのサービスタグは、各テスト画面の上部にあります。デルにお問い合わせになった際に、テクニカルサポート担当者がサービスタグをお伺いいたします。

4 **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合、適切なタブをクリックします（詳細については、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、およびさまざまな内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

5 テストが完了したら、画面を閉じて **Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

6 必要に応じて、Dell『Drivers and Utilities』メディアを取り出します。

9

トラブルシューティング

コンピュータのトラブルシューティングについては、次のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合、取り付け手順を見直して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺デバイスが機能しない場合、デバイスが適切に接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、サポート担当者が問題を診断および解決するのに役立つ場合があります。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合、そのプログラムのマニュアルを参照してください。

メモ : このマニュアルの手順は、Microsoft® Windows® のデフォルトビュー用ですので、お使いの Dell™ コンピュータを Windows クラシック表示に設定していると動作しない場合があります。

バッテリの問題

警告 : 新しいバッテリの取り付け方が間違っていると、破裂する危険があります。バッテリは、同じタイプ、または製造元が推奨する同等タイプのバッテリとのみ交換してください。使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

バッテリの交換 —コンピュータの電源を入れた後、時間と日付の情報を繰り返しリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合は、バッテリを交換します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「バッテリの交換」を参照）。それでもバッテリが正常に機能しない場合は、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ドライブの問題

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

MICROSOFT WINDOWS がドライブを認識しているかを確認します —

Windows XP：

- **スタート** をクリックして、マイコンピュータ をクリックします。

Windows Vista®：

- Windows Vista スタートボタン ™ をクリックして、**Computer**（コンピュータ）をクリックします。

ドライブが一覧に表示されていない場合、アンチウイルスソフトでウイルスチェックをおこない、ウイルスの除去を行います。ウイルスが原因で Windows がドライブを検出できないことがあります。

ドライブをテストします —

- 元のドライブに欠陥がないことを確認するために、別のディスクを入れます。
- 起動可能ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

ドライブまたはディスクをクリーニングします —77 ページの「コンピュータのクリーニング」を参照してください。

ケーブルの接続を確認します

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —121 ページの「Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® オペレーテングシステムにおける ソフトウェアとハードウェアの問題の トラブルシューティング」を参照してください。

DELL DIAGNOSTICS（診断）プログラム を実行します —97 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」参照してください。

光学ドライブの問題

メモ : 高速光学ドライブの振動は一般的なもので、ノイズを引き起こすこともありますが、ドライブやメディアの異常ではありません。

メモ : 世界各国の種々のリージョンおよびディスクフォーマットのため、DVD ドライブで再生できない DVD もあります。

WINDOWS の音量を調整します —

- 画面右下隅にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- スライドバーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

スピーカーとサブウーハーを確認します —111 ページの「サウンドとスピーカーの問題」を参照してください。

光学ドライブへの書き込みの問題

その他のプログラムを閉じます —光学ドライブは、データの書き込み中、一定したデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。光学ドライブへの書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してください。

ディスクに書き込む前に、WINDOWS のスタンバイモードをオフにします —37 ページの「電力の管理」を参照してください。

ハードディスクドライブの問題

チェックディスクを実行します —

Windows XP：

1 **スタート** をクリックして、マイコンピュータ をクリックします。
2 **ローカルディスク（C:）**を右クリックします。
3 **プロパティ** → **ツール** → **すぐチェックする** をクリックします。
4 **不良なセクタをスキャンして回復を試み、スタート** をクリックします。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート）をクリックして、**Computer**（コンピュータ）をクリックします。
2 **Local Disk C:**（ローカルディスク C:）を右クリックします。
3 **Properties**（プロパティ）→ **Tools**（ツール）→ **Check Now**（今すぐチェックする）をクリックします。
   User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示される場合があります。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。そうでない場合は、目的の操作を続行するためシステム管理者に連絡します。
4 画面の指示に従います。

エラーメッセージ

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

エラーメッセージが一覧にない場合、メッセージが表示されたときに実行していたオペレーティングシステムまたはプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には、次の文字は使用できません : \ / : * ? “ < > | — これらの文字をファイル名に使用しないでください。

必要な .DLL ファイルが見つかりません —開こうとしているプログラムには、必須のファイルがありません。次の操作を行い、プログラムを削除して再インストールします。

Windows XP：

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムの追加と削除** → **プログラムと機能** をクリックします。
2 削除するプログラムを選択します。
3 **Uninstall**（アンインストール）をクリックします。
4 インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート）→ **Control Panel**（コントロール パネル）→ **Programs**（プログラム）→ **Programs and Features**（プログラムと機能）をクリックします。
2 削除するプログラムを選択します。
3 **Uninstall**（アンインストール）をクリックします。
4 インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

ドライブ文字 :¥ にアクセスできません。デバイスの準備ができていません —ドライブがディスクを読み取ることができません。ドライブにディスクを入れ、再試行してください。

起動可能なメディアを挿入します —起動可能なディスク、CD または DVD を挿入します。

非システムディスクエラーです —フロッピーディスクをドライブから取り出し、コンピュータを再起動します。

メモリまたはリソースが不足しています。プログラムをいくつか閉じてから再試行してください —すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、使用するプログラムを最初に開きます。

オペレーティングシステムが見つかりません —デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

IEEE 1394 デバイスの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ : お使いのコンピュータがサポートしているのは、IEEE 1394a 規格のみです。

デバイスおよびコンピュータのコネクタに IEEE 1394 デバイスのケーブルが適切に挿入されていることを確認します

セットアップユーティリティで IEEE 1394 デバイスが有効になっていることを確認します—

81 ページの「セットアップオプション」を参照してください。

IEEE 1394 デバイスが WINDOWS によって認識されているか確認します —

Windows XP：

1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** → **システム** → **システムのプロパティ** → **ハードウェア** → **デバイスマネージャ** をクリックします。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート）→ **Control Panel**（コントロールパネル）→ **Hardware and Sound**（ハードウェアとサウンド）をクリックします。
2 **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

IEEE 1394 デバイスが一覧に表示されている場合、Windows はデバイスを認識しています。

DELL IEEE 1394 デバイスに問題が発生している場合 —デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

デル以外から購入した IEEE 1394 デバイスに問題がある場合 —IEEE 1394 デバイスの製造元にお問い合わせください。

キーボードの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

キーボードケーブルを確認します —

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「コンピュータ内部の作業を始める前に」を参照）、お使いのコンピュータのセットアップ図に示されているとおりにキーボードケーブルを再接続し、コンピュータを再起動します。
- ケーブルに損傷がないか、擦り切れていないか、ケーブルコネクタのピンが曲がったり壊れていたりしないかを確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード延長ケーブルがあればそれを外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します —正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —121 ページの「Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® オペレーテングシステムにおける ソフトウェアとハードウェアの問題の トラブルシューティング」を参照してください。

フリーズおよびソフトウェアの問題

 警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータが起動しない

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの反応が停止する

 注意 : オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります —キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けてコンピュータの電源を切ったあと、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しない

プログラムを終了します —

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押してタスクマネージャを開きます。
2. **Applications**（アプリケーション）タブをクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックして選択します。
4. **End Task**（タスクの終了）をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする

メモ：ほとんどのソフトウェアのインストールの手順は、ソフトウェアのマニュアル、フロッピーディスク、CD または DVD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを参照します —必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

プログラムが以前の Windows オペレーティングシステム向けに設計されている

プログラム互換性ウィザードを実行します —

Windows XP：

Windows XP には、Windows XP オペレーティングシステムとは異なるオペレーティングシステムに近い環境で、プログラムが動作するよう設定できるプログラム互換性ウィザードがあります。

1 **スタート** → **プログラム** → **アクセサリ** → **プログラム互換性ウィザード** → **次へ** をクリックします。
2 画面の指示に従います。

Windows Vista：

Windows Vista には、Windows Vista オペレーティングシステムとは異なるオペレーティングシステムに近い環境で、プログラムが動作するよう設定できるプログラム互換性ウィザードがあります。

1 **Start**（スタート） → **Control Panel**（コントロールパネル）→ **Program**（プログラム）→ **Use an older program with this version of Windows**（このバージョンの Windows で古いプログラムを使用する）をクリックします。
2 プログラム互換性ウィザードの開始画面で、**Next**（次へ）をクリックします。
3 画面の指示に従います。

画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります —キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、電源ボタンを 8 〜 10 秒以上押し続けてコンピュータの電源を切ったあと、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

問題のあるソフトウェアのマニュアルを参照するか、またはトラブルシューティング情報に関して、そのソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムと互換性があるか確認します。
- お使いのコンピュータがソフトウェアを実行するのに最低限度必要なハードウェア要件を満たしていることを確認します。情報に関しては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムと拮抗していないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

お使いのファイルのバックアップを今すぐ作成します

ウイルススキャンプログラムを使用して、ハードディスクドライブ、フロッピーディスク、CD または DVD を調べます

開いているファイルまたはプログラムをすべて保存してから閉じ、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします

メモリの問題

⚠ **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

メモリが不足しているというメッセージが表示される場合 —

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「メモリの取り付け」を参照)。
- メモリモジュールを取り付けなおして（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「メモリ」を参照)、お使いのコンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（97 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照)。

メモリにその他の問題がある場合 —

- メモリモジュールを取り付けなおして（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』のメモリを参照)、お使いのコンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』のメモリの取り付けを参照)。
- 使用するメモリがお使いのコンピュータでサポートされていることを確認します。お使いのコンピュータでサポートされているメモリのタイプについては、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』161 ページのメモリを参照してください。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（97 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照)。

マウスの問題

⚠ **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

マウスケーブルを確認します —

- ケーブルに損傷がないか、擦り切れていないか、ケーブルコネクタのピンが曲がったり壊れていたりしないかを確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- 使用しているマウス延長ケーブルをすべて取り外し、マウスをコンピュータに直接接続します。
- マウスケーブルが、コンピュータに付属のセットアップ図のとおりに接続されていることを確認します。

コンピュータを再起動します —

1 <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2 <u> を押し、上下矢印キーを押して **シャットダウン** または **電源を切る** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
3 コンピュータの電源を切った後、セットアップ図のとおりにマウスケーブルを接続しなおします。
4 コンピュータの電源を入れます。

マウスを確認します —正常に機能している別のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。

マウスの設定を確認します —

Windows XP：

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **マウス** をクリックします。
2 必要に応じて設定を調整します。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート） → **Control Panel**（コントロールパネル）→ **Hardware and Sound**（ハードウェアとサウンド）→ **Mouse**（マウス）をクリックします。
2 必要に応じて設定を調整します。

マウスドライバを再インストールします —117 ページの「ドライバ」を参照してください。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します — 121 ページの「Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® オペレーテングシステムにおける ソフトウェアとハードウェアの問題の トラブルシューティング」を参照してください。

ネットワークの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

ネットワークケーブルコネクタを確認します —ネットワークケーブルがコンピュータ背面のネットワークコネクタおよびネットワークジャックの両方に、しっかりと差し込まれているか確認します。

コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します —リンク保全ライトが消灯している場合（131 ページの「コントロールとライト」を参照）、ネットワークと通信していません。ネットワークケーブルを取り替えます。

コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおしてみます

ネットワークの設定を確認します —ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しく、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —121 ページの「Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® オペレーテングシステムにおける ソフトウェアとハードウェアの問題の トラブルシューティング」を参照してください。

電源の問題

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

電源ライトが白色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合 —92 ページの「ビープコード」を参照してください。

電源ライトが黄色に点灯している場合 —コンピュータはスタンバイモードになっています。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたり、電源ボタンを押したりすると、通常の動作が再開されます。

電源ライトが消灯している場合 —コンピュータの電源が切れているか、またはコンピュータに電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントに装着しなおします。
- 電源タップ、電源延長ケーブル、およびその他の電源保護装置を使用している場合は、それらを外してコンピュータの電源が正常に入ることを確認します。
- 使用している電源タップがあれば、電源コンセントに接続され、オンになっていることを確認します。
- 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
- 主電源ケーブルおよび前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているかを確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「システム基板コンポーネント」を参照)。

電気的な妨害を解消します —電気的な妨害の原因には、次のものがあります。

- 電源、キーボード、およびマウス拡張ケーブル
- 同じ電源タップに接続されているデバイスが多すぎる
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

メモ : プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します —プリンタのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細については、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源が入っているかどうか確認します

プリンタのケーブル接続を確認します —

- ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

コンセントをテストします —電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

WINDOWS がプリンタを認識しているか確認します —

Windows XP：

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。
2 プリンタが一覧に表示されたら、プリンタのアイコンを右クリックします。
3 **プロパティ** → **ポート** をクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** が **LPT1**（プリンタポート）に設定されているか確認します。USB プリンタの場合は、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート）→ **Control Panel**（コントロールパネル）→ **Hardware and Sound**（ハードウェアとサウンド）→ **Printer**（プリンタ）をクリックします。
2 プリンタが一覧に表示されたら、プリンタのアイコンを右クリックします。
3 **Properties**（プロパティ）をクリックし、**Ports**（ポート）をクリックします。
4 必要に応じて設定を調整します。

プリンタドライバを再インストールします —プリンタドライバを再インストールする手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

スキャナーの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ : スキャナーのテクニカルサポートについては、スキャナーの製造元にお問い合わせください。

スキャナーのマニュアルを確認します —スキャナーのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

スキャナーのロックを削除します —ロックが解除されているか確認します（スキャナーにロックタブやボタンがある場合）。

コンピュータを再起動して、もう一度スキャンしてみます

ケーブルの接続を確認します —

- ケーブルの接続については、スキャナーのマニュアルを参照してください。
- スキャナーのケーブルがスキャナーとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

スキャナーが MICROSOFT WINDOWS によって認識されていることを確認します —

Windows XP：

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **スキャナーとカメラ** をクリックします。
2 お使いのスキャナーが一覧に表示されている場合、Windows はスキャナーを認識しています。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート）→ **Control Panel**（コントロールパネル）→ **Hardware and Sound**（ハードウェアとサウンド）→ **Scanners and Camera**（スキャナとカメラ）をクリックします。
2 お使いのスキャナーが一覧に表示されている場合、Windows はスキャナーを認識しています。

スキャナードライバを再インストールします —手順については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

サウンドとスピーカーの問題

 警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

スピーカーから音が出ない

メモ：MP3 およびその他のメディアプレーヤーのボリューム調節が Windows のボリューム設定より優先されることがあります。メディアプレーヤーのボリュームが低く調節されていたり、オフになっていないかを常に確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します —スピーカーに付属しているセットアップ図の指示通りにスピーカーが接続されているか確認します。サウンドカードをご購入された場合は、スピーカーがカードに接続されていることを確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します —スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。

WINDOWS の音量を調整します —画面右下隅にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します —コンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーからの音声は聞こえなくなります。

コンセントをテストします —電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

電気的な妨害を解消します —コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切ってみます。

スピーカーの診断プログラムを実行します

サウンドドライバを再インストールします —117 ページの「ドライバ」を参照してください。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —121 ページの「Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® オペレーテングシステムにおける ソフトウェアとハードウェアの問題の トラブルシューティング」を参照してください。

ヘッドフォンから音が出ない

ヘッドフォンのケーブル接続を確認します —ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されていることを確認します（15 ページの「コンピュータの正面図」および 17 ページの「コンピュータの背面図」を参照）。

WINDOWS の音量を調整します —画面右下隅にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニタの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意 : 工場出荷時に PCI グラフィックカードが取り付けられていた場合は、追加のグラフィックカードを取り付ける際にそのカードを取り外す必要はありません。ただし、そのカードはトラブルシューティングのために必要です。カードを取り外した場合は、安全な場所に保管してください。グラフィックカードの詳細については、**support.jp.dell.com** にアクセスしてください。

画面に何も表示されない場合

メモ : トラブルシューティングの手順については、モニタのマニュアルを参照してください。

画面が見づらい場合

モニタのケーブル接続を確認します —

- モニタケーブルが正しいグラフィックカードに接続されていることを確認します（デュアルグラフィックカード構成の場合）。
- オプションの DVI-VGA アダプタを使用している場合は、アダプタがグラフィックカードとモニタに正しく接続されていることを確認します。
- モニタケーブルが、コンピュータに付属のセットアップ図に示されているように接続されていることを確認します。
- ビデオ延長ケーブルがあればそれを外し、モニタを直接コンピュータに接続します。
- コンピュータおよびモニタの電源ケーブルを交換して、モニタの電源ケーブルに問題がないか確認します。
- コネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します（モニタのケーブルコネクタは、通常いくつかのピンが欠けています）。

モニタの電源ライトを確認します —

- 電源ライトが点灯または点滅している場合、モニタには電力が供給されています。
- 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかり押して、モニタの電源が入っているか確認します。
- 電源ライトが点滅している場合、キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたりすると、通常の動作が再開されます。

コンセントをテストします —電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

ビープコードを確認します —92 ページの「ビープコード」を参照してください。

モニタの設定を確認します —モニタのコントラストと輝度の調整、モニタの消磁、およびモニタのセルフテストを実行する手順については、モニタのマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニタから離します —スピーカシステムにサブウーハーが含まれている場合は、サブウーハーがモニタから 60 cm 以上離れていることを確認します。

外部電源をモニタから離します —扇風機、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電化製品によって画面が「ぶれる」ことがあります。近くのデバイスの電源を切って干渉を調べます。

モニタを回転させ、直射日光や干渉を減らします

WINDOWS の画面設定を調整します —

Windows XP：

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
2 変更する領域をクリックするか、**画面** アイコンをクリックします。
3 **画面の色** および **画面の解像度** を別の設定にしてみます。

Windows Vista：

1 **Start**（スタート）→ **Control Panel**（コントロールパネル）→ **Hardware and Sound**（ハードウェアとサウンド）→ **Personalization**（個人設定）→ **Display Settings**（画面の設定）をクリックします。
2 必要に応じて **Resolution**（解像度）および **Colors settings**（色の設定）を調整します。

3D イメージの品質が良くない場合

グラフィックカードの電源ケーブルの接続を確認します —グラフィックカードの電源ケーブルがカードに正しく接続されていることを確認します。

モニタの設定を確認します —モニタのコントラストと輝度の調整、モニタの消磁、およびモニタのセルフテストを実行する手順については、モニタのマニュアルを参照してください。

画面の一部しか表示されない

外付けモニタを接続します —

1 コンピュータをシャットダウンして、外付けモニタをコンピュータに取り付けます。
2 コンピュータおよびモニタの電源を入れ、モニタの輝度およびコントラストを調整します。

外付けモニタが動作する場合、コンピュータのディスプレイまたはビデオコントローラが不良の可能性があります。デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

クロックアップの問題

クロックアップが原因でシステムが不安定になる可能性があります。3 回起動に失敗すると、セットアップユーティリティのオーバークロック設定が自動的に BIOS のデフォルトに戻されます。

この問題を手動で回避するには、セットアップユーティリティのオーバークロック設定（79 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）を変更するか、CMOS Defaults（88 ページの「CMOS 設定のクリア」を参照）をリセットする必要があります。

電源ライト

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

コンピュータの前面にある電源ボタンライトは、点滅したり点灯することで以下のさまざまな動作状態を示します。

- 電源ライトが白色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合、92 ページの「ビープコード」を参照してください。
- 電源ライトが白色に点滅している場合、コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたり、電源ボタンを押したりすると、通常の動作が再開されます。
- 電源ライトが消灯している場合は、コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。
  - 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
  - コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され、その電源タップがオンになっていることを確認します。
  - 電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
  - 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
  - 主電源ケーブルおよび前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているかを確認します（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の『サービスマニュアル』の「システム基板コンポーネント」を参照）。
- 電気的な妨害を解消します 電気的な妨害の原因には、次のものがあります。
  - 電源、キーボード、およびマウス拡張ケーブル
  - 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
  - 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

コンピュータの背面にある電源装置診断 LED は、以下のさまざまな状態を示します。電源装置をテストするには、電源装置テストスイッチを押してください。

- 電源装置診断 LED が緑の場合、電源装置の電力を使用できます。
- 電源装置診断 LED が消灯している場合、以下の原因が考えられます。
  - 電源装置に電力が供給されていない — 主電源ケーブルがシステム基板に接続されているか確認します。
  - 電源が機能していない — 電力が十分に供給されていないか、デバイスが電源に接続されていない場合に発生します。

  この問題を解決するには、デルにお問い合わせください（139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

10

ソフトウェアの再インストール

ドライバ

ドライバとは ?

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、必要なドライバおよびユーティリティが出荷時にすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

注意 :『Drivers and Utilities』メディアには、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバも収録されている場合もあります。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft Windows オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合には、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの確認

デバイスに問題が発生した場合、次の手順を実行して問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Microsoft® Windows® XP

1. **スタート** → **コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックし、**システム** をクリックします。
3. **システムのプロパティ** ウィンドウで、**ハードウェア** タブをクリックし、**デバイスマネージャ** をクリックします。

Windows Vista®

1 Windows Vista スタートボタン ™ をクリックして、**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。

2 **Properties**（プロパティ）→ **Device Manage**r（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ : User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示される場合があります。コンピュータの管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。管理者でない場合は、管理者に連絡して作業を続けます。

一覧をスクロールダウンし、デバイスアイコン上の感嘆符（**[!]** の付いた黄色の円）の付いたデバイスを探します。

デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります（118 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照）。

ドライバおよびユーティリティの再インストール

注意 : デルサポートサイト **support.jp.dell.com** および『Drivers and Utilities』メディアでは、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバが提供を提供しています。その他の媒体からのドライバをインストールすると、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

Windows デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合は、Windows のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

Windows XP：

1 **スタート** → **マイコンピュータ** → **プロパティ** → **ハードウェア** → **デバイスマネージャ** をクリックします。

2 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。

3 **ドライバ** タブ → **ドライバのロールバック** をクリックします。

Windows Vista：

1 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。

2 **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ : User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示される場合があります。コンピュータの管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。管理者でない場合は、管理者に連絡してデバイスマネージャを起動します。

3. 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、**Prpoperties**（プロパティ）をクリックします。
4. **Drivers**（ドライバ）タブ → **Roll Back Driver**（ドライバのロールバック）をクリックします。

デバイスドライバのロールバックを使っても問題が解決しない場合、システムの復元（122 ページの「お使いのオペレーティングシステムの復元」を参照）を使って、新しいドライバがインストールされる前の動作状態にオペレーティングシステムを戻します。

Drivers and Utilities メディアの使い方

1. Windows デスクトップが表示されている状態で、『Drivers and Utilities』メディアをドライブにセットします。

   『Drivers and Utilities』メディアを初めてお使いになる場合は、手順 2 に進みます。それ以外の場合は手順 5 に進みます。

2. 『Drivers and Utilities』メディアインストールプログラムが起動したら、画面の指示に従います。
3. **InstallShield** ウィザードの完了 ウィンドウが表示されたら、『Drivers and Utilities』メディアを取り出し、**完了** をクリックしてコンピュータを再起動します。
4. Windows デスクトップが表示されたら、『Drivers and Utilities』メディアをもう一度挿入します。
5. **Dell ResourceCD InstallShield ウィザードへようこそ** 画面で、**次へ**をクリックします。

メモ：『Drivers and Utilities』メディアでは、出荷時にお使いのコンピュータに取り付けられていたハードウェアのドライバのみが表示されます。追加のハードウェアを取り付けてある場合、新しいハードウェアのドライバは『Drivers and Utilities』メディアによって表示されないことがあります。ドライバが表示されていない場合は、『Drivers and Utilities』プログラムを終了します。ドライバの情報については、デバイスに付属するマニュアルを参照してください。

   コンピュータ上のハードウェアをメディアが検出中であるというメッセージが表示されます。

   お使いのコンピュータで使用されているドライバが、**My Drivers—The Drivers and Utilities media has identified these components in your system**（マイドライバ—『Drivers and Utilities』メディアはシステム上でこれらのコンポーネントを検出しました）ウィンドウに自動的に表示されます。

6. 再インストールするドライバをクリックし、画面の指示に従います。

特定のドライバが一覧に表示されていない場合は、オペレーティングシステムはそのドライバを必要としません。

ドライバを手動でインストールするには

前項で記述されているように、お使いのハードディスクドライブにドライバファイルを解凍してから、

Windows XP：

1 **スタート** → **マイコンピュータ** → **プロパティ** → **ハードウェア** → **デバイスマネージャ** をクリックします。
2 インストールするドライバのデバイスのタイプをダブルクリックします（たとえば、**オーディオ** または **ビデオ**）。
3 インストールするドライバのデバイスの名前をダブルクリックします。
4 **ドライバ** タブ → **ドライバの更新** をクリックします。
5 **一覧または特定の場所からインストールする（詳細）**→ **次へ** をクリックします。
6 **参照** をクリックして、あらかじめドライバファイルをコピーしておいた場所を参照します。
7 該当するドライバの名前が表示されたら、**次へ** をクリックします。
8 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

Windows Vista：

1 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。
2 **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ : User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示される場合があります。コンピュータの管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。管理者でない場合は、管理者に連絡してデバイスマネージャを起動します。

3 インストールするドライバのデバイスのタイプをダブルクリックします（たとえば、**オーディオ** または **ビデオ**）。
4 インストールするドライバのデバイスの名前をダブルクリックします。
5 **Drivers**（ドライバ）タブ → **Update Driver**（ドライバの更新）→ **Browse my computer for driver software**（コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します）をクリックします。
6 **Browse**（参照）をクリックして、あらかじめドライバファイルをコピーしておいた場所を参照します。
7 該当するドライバの名前が表示されたら、ドライバの名前 → **OK**→ **Next**（次へ）をクリックします。
8 **Finish**（完了）をクリックして、コンピュータを再起動します。

Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® オペレーテングシステムにおけるソフトウェアとハードウェアの問題のトラブルシューティング

デバイスが OS のセットアップ中に検知されない、または、検知されても設定が正しくない場合は、非互換性の問題を解決するためにハードウェアに関するトラブルシューティングを使用できます。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを開始するには、次の手順を実行します。

Windows XP：

1. **スタート** → **ヘルプとサポート** をクリックします。
2. 検索フィールドに `hardware troubleshooter`（ハードウェアに関するトラブルシューティング）と入力し、<Enter> を押して検索を開始します。
3. **問題を解決する** セクションで、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4. **ハードウェアに関するトラブルシューティング** の一覧で、問題を適切に示すオプションを選択し、**次へ** をクリックしてトラブルシューティングの残りの手順に従います。

Windows Vista：

1. Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。
2. 検索フィールドに、`hardware troubleshooter` と入力し、<Enter> を押して検索を開始します。
3. 検索結果のうち、問題を最もよく表しているオプションを選択し、残りのトラブルシューティング手順に従います。

お使いのオペレーティングシステムの復元

次の方法で、お使いのオペレーティングシステムを復元することができます。

- システムの復元は、データファイルに影響を与えることなく、コンピュータを以前の動作状態に戻します。オペレーティングシステムを復元し、データファイルを保持する最初の解決策として、システムの復元を使用してください。
- シマンテック製の Dell PC リストア（Windows XP で利用可能）および Dell Factory Image Restore（Windows Vista で利用可能）によって、お使いのハードディスクドライブはコンピュータの工場出荷時の動作状態に戻ります。どちらのアプリケーションでも、ハードディスクドライブ内の全データが永久に削除され、またコンピュータを受け取った後にインストールしたプログラムはすべて削除されます。Dell PC リストア または Dell Factory Image Restore は、システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合にのみ使用してください。
- コンピュータに『オペレーティングシステム』ディスクが付属している場合は、この CD を使用してオペレーティングシステムを復元できます。ただし、『オペレーティングシステム』ディスクを使用した場合も、ハードディスクドライブディスクドライブ上のデータはすべて削除されます。システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合にのみ、『オペレーティングシステム』ディスクを使用してください。

Microsoft Windows システムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したために、コンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合は、Windows オペレーティングシステムのシステムの復元オプションを使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元オプションによってコンピュータに行なわれる変更は、完全に元に戻すことが可能です。

注意 : データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元は、データファイルの監視や、データファイルの復元は行いません。

メモ : このマニュアルの手順は、Windows のデフォルトビュー用ですので、お使いの Dell™ コンピュータを Windows クラシック表示に設定していると動作しない場合があります。

システムの復元の開始

Windows XP：

注意：コンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除したりしないでください。

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **システムの復元** をクリックします。
2 **コンピュータを以前の状態に復元する**、または **復元ポイントの作成** のいずれかをクリックします。
3 **次へ** をクリックして、画面に表示される指示に従います。

Windows Vista：

1 **スタート** をクリックします。
2 検索の開始ボックスに `System Restore` と入力し、<Enter> キーを押します。

メモ：User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示される場合があります。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。そうでない場合は、目的の操作を続行するためシステム管理者に連絡します。

3 **Next**（次へ）をクリックして、画面に表示される指示に従います。

システムの復元を実行しても問題が解決されない場合、最後に行ったシステムの復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元の取り消し

注意：最後のシステムの復元を元に戻す前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除したりしないでください。

Windows XP：

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **システムの復元** をクリックします。
2 **以前の復元を取り消す** をクリックして、**次へ** をクリックします。

Windows Vista：

1 **スタート** クリックします。
2 検索の開始ボックスに `System Restore` と入力し、<Enter> キーを押します。
3 **Undo my last restration**（以前の復元を取り消す）をクリックして、**Next**（次へ）をクリックします。

システムの復元の有効化

メモ： Windows Vista では、ディスク領域が少ない場合でも、システムの復元は無効になりません。したがって、次の手順は Windows XP のみに適用されます。

200 MB より空き容量が少ないハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されています。

システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **パフォーマンスとメンテナンス** → **システム** をクリックします。

2 **システムの復元** タブをクリックし、**システムの復元を無効にする** のチェックマークが付いていないことを確認します。

Dell™ PC リストアおよび Dell Factory Image Restore の使い方

注意： Dell PC リストア、Dell Factory Image Restore のいずれを使用しても、ハードディスクドライブ上の全データが永久に削除され、またコンピュータを受け取った後にインストールしたプログラムはすべて削除されます。できる限り、これらのオプションを使用する前にデータをバックアップするようにしてください。Dell PC リストアまたは Dell Factory Image Restore は、システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合にのみ使用してください。

メモ： シマンテック製の Dell PC リストアおよび Dell Factory Image Restore は、国またはコンピュータによってはご利用になれない場合があります。

Dell PC Restore（Windows XP）または Dell Factory Image Restore（Windows Vista）は、オペレーティングシステムを復元する際の最終的な方法として使用してください。これらのオプションにより、お使いのハードディスクドライブはコンピュータの工場出荷時の動作状態に戻ります。コンピュータを受け取られてから追加された、データファイルを含むどのようなプログラムやファイルも永久にハードディスクドライブから削除されます。データファイルには、コンピュータ上の文書、表計算、メールメッセージ、デジタル写真、ミュージックファイルなどが含まれます。PC リストアまたは Factory Image Restore を使用する前にすべてのデータをバックアップするようにしてください。

Windows XP：Dell PC リストア

Dell PC リストアの使い方：

1 コンピュータの電源を入れます。

   起動プロセスの間、**www.dell.com** と書かれた青いバーが画面の上部に表示されます。

2 青色のバーが表示されたら、すぐに <Ctrl><F11> を押します。

   <Ctrl><F11> を押すのが遅れた場合は、いったんコンピュータがスタートし終わるのを待って、もう一度再スタートします。

注意： PC リストアをこれ以上進めたくない場合は、**再起動** をクリックします。

3 **復元** をクリックし、**確認** をクリックします。

復元処理を完了するには、約 6 ～ 10 分かかります。

4 プロンプトが表示されたら、**終了** をクリックしてコンピュータを再起動します。

メモ : コンピュータを手動でシャットダウンしないでください。**終了** をクリックすると、コンピュータが完全に再起動されます。

5 確認のメッセージが表示されたら、**Yes**（はい）をクリックします。

コンピュータは再起動します。コンピュータは初期の稼動状態に復元されるため、エンドユーザーライセンス契約のようにいちばん初めにコンピュータのスイッチを入れたときと同じ画面が表示されます。

6 **次へ** をクリックします。

システムの復元 画面が表示されて、コンピュータが再起動します。

7 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

PC リストアの削除：

注意 : Dell PC リストアをハードディスクドライブから永久に削除すると、PC リストアユーティリティがお使いのコンピュータから削除されます。Dell PC リストアの削除後は、Dell PC リストアを使用してコンピュータのオペレーティングシステムを復元することはできません。

PC リストアを使用すると、オペレーティングシステムを、コンピュータをご購入になった時の状態に戻すことができます。ハードディスクドライブに空き容量を作りたい場合であっても、PC リストア をお使いのコンピュータからは削除しないことをお勧めします。ハードディスクドライブから PC リストアを削除すると、呼び戻すことさえ不可能になるため、コンピュータのオペレーティングシステムを初期状態に戻すための PC リストアの使用は完全に不可能になります。

1 コンピュータにローカルのシステム管理者としてログオンします。

2 Microsoft Windows エクスプローラで、**c:¥dell¥utilities¥DSR** に移動します。

3 ファイル名 **DSRIRRemv2.exe** をダブルクリックします。

メモ : ローカルのシステム管理者としてログオンしていない場合は、ローカルのシステム管理者としてログオンするようメッセージが表示されます。**終了** をクリックしてから、ローカル管理者としてログオンします。

メモ : お使いのコンピュータのハードディスクドライブに PC リストアのパーティションが存在しない場合、パーティションが見つからなかったことを示すメッセージが表示されます。**終了** をクリックしてください。削除するパーティションはありません。

4 **OK** をクリックして、ハードディスクドライブ上の PC リストアパーティションを削除します。

5 確認のメッセージが表示されたら、**はい** をクリックします。

PC リストア用パーティションが削除され、新しくできた使用可能ディスクスペースが、ハードディスクドライブの空き領域の割り当てに加えられます。

6 Windows エクスプローラで **ローカルディスク（C）** を右クリックし、**プロパティ** をクリックします。**空き領域** の数値が増えていることで、利用できるディスク容量が増加していることを確認します。

7 **完了** をクリックし、**PC リストアの削除** ウィンドウを閉じて、コンピュータを再起動します。

Windows Vista：Dell Factory Image Restore

1 コンピュータの電源を入れます。Dell のロゴが表示されたら、<F8> を数回押して Vista Advanced Boot Options ウィンドウにアクセスします。

2 **Repair Your Computer**（コンピュータの修復）を選択します。

System Recovery Options（システム回復オプション）ウィンドウが表示されます。

3 キーボードレイアウトを選択して、**Next**（次へ）をクリックします。

4 回復オプションにアクセスするために、ローカルユーザーとしてログオンします。コマンドプロンプトにアクセスするために、ユーザー名フィールドで `administrator` と入力し、**OK** をクリックします。

5 **Dell Factory Image Restore** をクリックします。

メモ：使用する構成によっては、**Dell Factory Tools**、**Dell Factory Image Restore** の順序で選択しなければならない場合もあります。

Dell Factory Image Restore ウェルカム画面が表示されます。

6 **Next**（次へ）をクリックします。

Confirm Data Deletion（データ削除の確認）画面が表示されます。

注意：Factory Image Restore をこれ以上進めたくない場合は、**Cancel**（キャンセル）をクリックします。

7 ハードディスクドライブの再フォーマット、およびシステムソフトウェアの工場出荷時の状態への復元の作業を続ける意思を確認するためのチェックボックスをクリックして、**Next**（次へ）をクリックします。

復元処理が開始されます。復元処理が完了するまで 5 分以上かかる場合があります。オペレーティングシステムおよび工場出荷時にインストールされたアプリケーションが工場出荷時の状態に戻ると、メッセージが表示されます。

8 **Finish**（完了）をクリックして、システムを再起動します。

オペレーティングシステムメディアの使い方

作業を開始する前に

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows オペレーティングシステムの再インストールを検討している場合は、最初に Windows のデバイスドライバのロールバックを試してください。118 ページの「Windows デバイスドライバのロールバックの使い方」を参照してください。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合、システムの復元を使ってオペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。122 ページの「Microsoft Windows システムの復元の使い方」を参照してください。

注意 : インストールを実行する前に、お使いのプライマリハードディスクドライブ上のすべてのデータファイルのバックアップを作成しておいてください。標準的なハードディスクドライブ構成において、コンピュータによって 1 番目に認識されるドライブがプライマリハードディスクドライブです。

Windows を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™『オペレーティングシステム』メディア
- Dell『Drivers and Utilities』メディア

メモ : Dell『Drivers and Utilities』メディアには、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。Dell『Drivers and Utilities』メディアを使用して、必要なドライバをロードします。お使いのコンピュータを購入した地域、またはメディアの注文の有無によっては、Dell『Drivers and Utilities』メディアと『オペレーティングシステム』メディアがシステムに付属していない場合があります。

Windows XP または Windows Vista の再インストール

再インストール処理を完了するには、1 ～ 2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

注意 :『オペレーティングシステム』メディアには、Windows XP の再インストール用のオプションが収録されています。オプションはファイルを上書きして、ハードディスクドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows XP を再インストールしないでください。

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 『オペレーティングシステム』ディスクを挿入します。
3. `Install Windows`（Windows のインストール）というメッセージが表示されたら、**Exit**（終了）をクリックします。

4 コンピュータを再起動します。

DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ : キーを押すタイミングが遅れて、OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして再度試します。

メモ : 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

5 起動デバイスの一覧が表示されたら、**CD/DVD/CD-RW Drive** をハイライト表示して <Enter> を押します。

6 **CD から起動** するには、いずれかのキーを押します。

7 画面の指示に従ってインストールを完了します。

11

仕様

 メモ : 提供される内容は地域により異なる場合があります。コンピュータの構成に関する詳細については、**Start**（スタート）→ **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックし、コンピュータに関する情報を表示するためのオプションを選択してください。

プロセッサ	
プロセッサタイプ	Intel® Core™ 2 Duo Intel Core 2 Quad Intel Core 2 Extreme（デュアルおよびクアッドコアプロセッサ）
キャッシュ	1 MB 以上
FSB 速度	1066/1333 MHz

システム情報	
システムチップセット	NVIDIA® nForce 650i SLI
ノースブリッジ	C55
サウスブリッジ	MCP51
BIOS チップ	8 MB
NIC	10/100/1000 Mbps の通信が可能なオンボード NIC

メモリ	
メモリモジュールコネクタ	ユーザーがアクセス可能な DDR2 ソケット × 4
メモリモジュールの容量	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB 非 ECC
メモリのタイプ	800 MHz および 667 MHz DDR2 アンバッファ SDRAM、SLI メモリ
最小メモリ	1 GB
最大搭載メモリ	8 GB

拡張バス	
バスのタイプ	PCI Express x1、x8、および x16 PCI 32 ビット
PCI（SLOT5 および SLOT6）	
コネクタ	2
コネクタサイズ	124 ピン
コネクタデータ幅（最大）	32 ビット
バス速度	33 MHz
PCI Express（SLOT2）	
コネクタ	1
コネクタサイズ	36 ピン
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン × 1
バスのスループット	x1 スロットの双方向速度 — 2.5 Gbps
PCI Express（SLOT3）	
コネクタ	x8、1 個
コネクタサイズ	98 ピン
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン（1）
PCI Express（SLOT1 および SLOT4）	
コネクタ	x16 × 2
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン × 8 **メモ：**SLOT1 はプリマリ GFX スロットです。SLOT4 はセカンダリ GFX スロットです。

ポートとコネクタ	
外付けコネクタ：	
オーディオ	マイク、ライン入力、ライン出力、サイドサラウンド、センター /LFE、リアサラウンド
IEEE 1394	6 ピンシリアルコネクタ
ネットワークアダプタ	RJ-45 ポート
PS/2 キーボード / マウス	6 ピンミニ DIN コネクタ
USB	4 ピン USB 2.0 準拠コネクタ
S/PDIF	Toslink オプティカルコネクタ

ポートとコネクタ （続き）	
システム基板コネクタ	
IDE ドライブ	40 ピンコネクタ× 1
シリアル ATA	7 ピンコネクタ × 4
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ × 1
ファン	4 ピンコネクタ × 3
PCI	124 ピンコネクタ × 2
PCI Express x 1	36 ピンコネクタ × 1
PCI Express x 8	98 ピンコネクタ × 1
PCI Express x 16	164 ピンコネクタ × 2

コントロールとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	白色のライト — 白色の点灯は電源投入状態です。
	白色のライトの点滅 — 白色の点滅は省電力状態です。
ハードディスクドライブアクセスライト	白色
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	緑色のライト — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。
	橙色のライト — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。
	黄色のライト — 1 Gbps（1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。
	オフ（消灯）— コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していません。
電源装置診断 LED	緑色のライト — 電源装置の電力を使用できることを示します。
	オフ（消灯）— 電源装置に使用できる電力がないことを示します。
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色のライトの点滅 — 点滅はネットワーク動作を示します。
	オフ（消灯）— ネットワーク動作がないことを示します。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

コントロールとライト （続き）	
前面パネル LED	7 つの多色 LED がコンピュータの正面を照らします。 **メモ :** LED の色は、Windows Nvidia ESA ライト影響ソフトウェアを使用して調整できます。
背面パネル LED	2 つの多色ライトがコンピュータ背面の I/O パネルを照らします。 **メモ :** LED の色は、Windows Nvidia ESA ライト影響ソフトウェアを使用して調整できます。

ビデオ	
ビデオタイプ	PCI Express

オーディオ	
オーディオタイプ	HDA 7.1 チャネル

電源	
DC 電源装置	**警告 : 発火、感電、けがを防止するため、電源コンセント、電源タップ、アウトレットに過重電流を流さないでください。電源コンセント、電源タップ、その他のソケットに接続した全製品のアンペアの総定格が、分岐回路定格の 80% を超えないようにしてください。**
ワット数	750 W：
熱消費	750 W：2559.1 BTU/ 時 **メモ :** 熱消費は電源ユニットのワット数定格に基づいて算出したものです。
電圧（『製品情報ガイド』の安全手順を参照）	自動検出電源 — 50/60 Hz で 90 V ～ 265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリ

寸法	
高さ	488 mm
横幅	195 mm
奥行き	560 mm

環境	
温度範囲：	
動作時	0 ～ 40 ℃
保管時	–40 ～ 65 ℃
相対湿度（最大）：	
動作時	10 ～ 90 %（結露しないこと）
保管時	5 ～ 95 %（結露しないこと）
最大振動（ユーザー環境をシミュレートするランダム振動スペクトラムを使用時）：	
動作時	0.9 GRMS
保管時	1.3 GRMS
最大衝撃（HDD のヘッド停止位置で 2 ミリ秒のハーフサインパルスで測定）：	
動作時	122 G
保管時	163 G
高度（最大）：	
動作時	–15.2 ～ 3,048 m
保管時	–15.2 ～ 10,668 m
空気中浮遊汚染物質レベル	G2、または ISA-S71.04-1985 が定める規定値以内

12

困ったときは

テクニカルサポートを受けるには

警告 : コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まずコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルをすべてのコンセントから外してください。

コンピュータに何らかの問題が発生した場合は、問題の診断と解決のために次の手順を完了します。

1. コンピュータで発生している問題に関する情報および手順については、101 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。
2. Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行の手順については、97 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。
3. 138 ページの「診断チェックリスト」に必要事項を記入してください。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポートサイト（**support.jp.dell.com**）をご覧ください。デルサポートオンラインのより詳細なリストについては、136 ページの「オンラインサービス」を参照してください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

メモ : デルサポートへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。サポート担当者がコンピュータでの操作をお願いすることがあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は適切なサポート担当者に転送されます。エクスプレスサービスコードをお持ちでない場合は、**Dell Accessories** フォルダを開き、**エクスプレスサービスコード** アイコンをダブルクリックします。その後は、表示される指示に従ってください。

デルサポートの利用方法については、136 ページの「テクニカルサポートとカスタマーサービス」を参照してください。

メモ : これらのサービスはアメリカ合衆国以外の地域では利用できない場合があります。サービスが利用可能かどうかに関しては、最寄りのデル担当者へお問い合わせください。

テクニカルサポートとカスタマーサービス

Dell™ ハードウェアに関するお問い合わせは、デルのテクニカルサポートをご利用ください。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

デルのテクニカルサポートへお問い合わせになるときは、まず 137 ページの「お問い合わせになる前に」を参照し、次に、お住まいの地域の連絡先を参照するか、**support.jp.dell.com** をご覧ください。

DellConnect

DellConnect は簡単なオンラインアクセスツールで、このツールの使用により、デルのサービスおよびサポートは、ブロードバンド接続を通じてコンピュータにアクセスし、お客様の監視の下で問題の診断と修復を行うことができるようになります。詳細については、**support.jp.dell.com** にアクセスし、**DellConnect** をクリックしてください。

オンラインサービス

Dell 製品およびサービスについては、次のウェブサイトをご覧ください。

www.dell.com

www.dell.com/ap（アジア / 太平洋諸国）

www.dell.com/jp（日本）

www.euro.dell.com.（ヨーロッパ）

www.dell.com/la（ラテンアメリカおよびカリブ海諸国）

www.dell.ca （カナダ）

デルサポートへのアクセスには、次の Web サイトおよび E- メールアドレスをご利用ください。

- デルサポートサイト
  support.dell.com

  support.jp.dell.com（日本）

  support.euro.dell.com（ヨーロッパ）

- デルサポートの E- メールアドレス
  mobile_support@us.dell.com

  support@us.dell.com

  la-techsupport@dell.com（ラテンアメリカおよびカリブ海諸国）

  apsupport@dell.com （アジア / 太平洋諸国）

自動納期案内電話サービス

注文したデル製品の状況を確認するには、**support.jp.dell.com** にアクセスするか、24 時間納期情報案内サービスにお問い合わせください。音声による案内で、注文について調べて報告するために必要な情報をお伺いします。電話番号については、139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

ご注文に関する問題

欠品、部品の誤り、間違った請求書などの注文に関する問題がある場合は、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。電話番号については、139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

製品情報

デルのその他の製品に関する情報や、ご注文に関しては、デルウェブサイト **www.dell.com/jp** をご覧ください。お住まいの地域のセールスの電話番号について、またはセールス担当者への連絡は、139 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

保証期間中の修理と返品について

『「こまった」ときの DELL パソコン Q&A』をご覧ください。

お問い合わせになる前に

メモ : お電話の際は、エクスプレスサービスコードをご用意ください。エクスプレスサービスコードを利用すると、デルのオートテレフォンシステムによって、より迅速にサポートが受けられます。また、サービスタグ（コンピュータの背面または底部にあります）が必要な場合もあります。

診断チェックリストに前もってご記入ください（138 ページの「診断チェックリスト」を参照）。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。キーボードからのコマンドの入力や、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータ自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

警告 : コンピュータ内部の作業を始める前に『製品情報ガイド』に記載されている安全にお使いいただくための注意を参照してください。

診断チェックリスト

名前：

日付：

住所：

電話番号：

サービスタグナンバー (コンピュータ背面または底面のバーコードの番号)：

エクスプレスサービスコード：

返品番号（デルサポート担当者から提供された場合）：

オペレーティングシステムとバージョン：

周辺機器：

拡張カード：

ネットワークに接続されていますか ? はい　いいえ

ネットワーク、バージョン、ネットワークアダプタ：

プログラムとバージョン：

オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、システムの起動ファイルの内容を確認してください。コンピュータにプリンタを接続している場合、各ファイルを印刷します。印刷できない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。

エラーメッセージ、ビープコード、または Diagnostics（診断）コード：

問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

デルへのお問い合わせ

米国にお住まいの方は、800-WWW-DELL（800-999-3355）までお電話ください。

メモ：インターネット接続の環境にない場合は、納品書、出荷伝票、請求書、または Dell 製品カタログに記載されている連絡先をご利用ください。

デルでは、複数のオンラインと、電話ベースのサポートおよびサービスオプションを用意しています。利用できる手段は国や製品により異なる場合があります。また地域によっては一部のサービスが受けられない場合もあります。セールス、テクニカルサポート、カスタマーサービスへのお問い合わせは、次の手順を実行してください。

1. **support.jp.dell.com** へアクセスします。
2. ページの下にある **Choose A Country/Region**（国 / 地域の選択）ドロップダウンメニューで、お住まいの国 / 地域を確認します。
3. ページの左側にある **Contact Us** （お問い合わせ）をクリックします。
4. 目的のサービスまたはサポートを選択します。
5. ご自身に最適なデルへの問い合わせ方法を選んでください。

付録

FCC 規定（米国のみ）

FCC クラス B

この装置は、ラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、放射する可能性があります。製造元のマニュアルに従わずに取り付けて使用した場合、ラジオやテレビに受信障害を生じさせる場合があります。本装置は、試験の結果、FCC 規則パート 15 に準拠するクラス B デジタル装置の規制に適合しています。

この装置は FCC（米国連邦通信委員会）規定の第 15 項に適合しています。次の 2 つの条件に従って使用してください。

1. 本装置が有害な障害を引き起こさないこと。
2. 本装置は、受信障害を起こすと、望ましくない操作が必要になる場合もあります。

注意：FCC 規則では、Dell Inc. によって明確に許可されていない変更修正を行った場合、その装置を使用する権限が無効になることがあると規定されていますのでご注意ください。

この規制は、個人の家に取り付けた場合に、有害な障害に対する適正な保護を提供するよう設計されています。ただし、特定の設定で電波障害が発生しないという保証はありません。本装置のスイッチをオンオフすることにより、本装置がラジオやテレビに受信障害を引き起こしていることが確認された場合は、次の方法をお試しになるようお勧めします。

- 受信アンテナの方向を変えてください。
- 受信機に注意してシステムの位置を変えてください。
- システムを受信機から離して置いてください。
- システムを別のコンセントに差し込み、システムと受信機の分岐回路が異なるようにしてください。

必要に応じて、弊社のカスタマーケアまたはラジオ / テレビの経験を積んだ技術者に連絡し、アドバイスをもらってください。

次の情報は、FCC 規則に準拠する本書で取り扱う装置に関するものです。

- 製品名：Dell™ XPS™ 630i
- モデル番号：DCDR01
- 会社名：
  Dell Inc.
  Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs
  One Dell Way
  Round Rock, TX 78682 USA
  512-338-4400

 メモ : 規定の詳細については、『製品情報ガイド』を参照してください。

Macrovision

この製品には、特許第 5,315,448 号および第 6,836,549, 号を含む米国や他国特許、ならびにその他知的財産権によって 保護されている著作権保護技術が組み込まれています。本製品の Macrovision の著作権保護技術の使用は、Macrovision の承認を必要とします。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

用語集

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current（交流）コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと供給される電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

AHCI — Advanced Host Controller Interface — SATA ハードディスクドライブホストコントローラのインタフェースです。ストレージドライバは、これによってネイティブコマンドキューイング（NCQ）やホットプラグのようなテクノロジを有効にできます。

ALS — 環境照明センサー — ディスプレイの輝度を調整する機能です。

ASF — alert standards format — 管理コンソールにハードウェアとソフトウェアの警告を報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるよう設計されています。

B

BIOS — basic input/output system （基本入出力システム）コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。「セットアップユーティリティ」とも呼ばれます。

Bit — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジ — 短距離（9 メートル）内にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジ標準です。

bps — bits per second （ビット / 秒）データの転送速度を計測する標準単位です。

BTU — British thermal unit （英国熱量単位）発熱量の単位です。

C

C — 摂氏（Celsius）温度の測定単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。

CD-RW ドライブ — CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW/DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CMOS — 電気回路の一種。コンピュータは少量のバッテリで動く CMOS メモリを使用して、日付と時刻、およびセットアップユーティリティオプションを保持します。

COA — Certificate of Authenticity（実物証明書）お使いのコンピュータのラベルに記載されている Windows の英数文字のコードです。プロダクトキーやプロダクト ID とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM）メモリチップの搭載されていない特殊なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに装着するために使用されます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM）データバーストサイクルを 2 倍にする SDRAM の一種です。システムの性能が向上します。

DDR2 SDRAM — double-data-rate 2 SDRAM（ダブルデータ速度 2 SDRAM）— 4 ビットプリフェッチおよびその他のアーキテクチャ上の変更により、メモリ速度を 400 MHｚ 以上にしたタイプの DDR SDRAM。

Dell Travel Remote— マルチメディアコンテンツを楽しむための簡単な機能を提供する、ノートブックコンピュータの ExpressCard スロットに格納される小さなリモートコントロール。

DIMM — dual in-line memory module — システム基板のメモリモジュールに接続されるメモリチップを搭載した回路基板です。

DIN コネクタ — 丸い 6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は PS/2 キーボードやマウスケーブルのコネクタに使用されます。

DMA — direct memory access — DMA チャネルを使うと、RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理標準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory — コンデンサを含む集積回路内に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line — アナログ電話回線を介して、安定した高速インターネット接続を提供するテクノロジです。

DVD-R — DVD recordable — 書き込み可能な DVD です。DVD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

DVD+RW — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。(DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります。）

DVD+RW ドライブ — DVD とほとんどの CD メディアを読み取ることができるドライブです。DVD+RW ディスクに書き込むこともできます。

DVI — digital video interface （デジタルビデオインタフェース）コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル転送用の標準です。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正）メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取ったりするときに、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの拡張仕様の 1 つです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — ハードディスクドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference（電磁波障害）電磁放射線が原因で起こる電気障害です。

ENERGY STAR® — Environmental Protection Agency（米国環境保護局）が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの仕様の 1 つです。

ESD — electrostatic discharge（静電気障害）静電気の急激な放出のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

ExpressCard — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。ExpressCard の一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。ExpressCard は、PCI Express と USB 2.0 の両規格をサポートします。

F

FBD — fully-buffered DIMM（完全バッファ型 DIMM）DDR2 SDRAM チップと、DDR2 SDRAM チップとシステムの間の通信を高速化する Advanced Memory Buffer（AMB）を搭載した DIMM です。

FCC — Federal Communications Commission（米国連邦通信委員会）コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行する アメリカの機関。

FSB — front side bus — プロセッサと RAM の間のデータ経路および物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol（ファイル転送プロトコル）インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイルの交換に利用される標準のインターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — データの単位です。1 GB は 1024 MB（1,073,741,824 バイト）です。ハードディスクドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 周波数の計測単位です。1 GHz は 10 億 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI — graphical user interface — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーとやり取りする対話型ソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのプログラムは GUI です。

H

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイル交換用プロトコルです。

Hz — ヘルツ 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ（kHz)、メガヘルツ（MHz)、ギガヘルツ（GHz)、またはテラヘルツ（THz）単位で計測される場合もあります。

I

iAMT — Intel® Active Management Technology — コンピュータの電源が入っているかどうかにかかわらず、またはオペレーティングシステムが応答していないかどうかにかかわらず、よりセキュアな管理機能を提供します。

IC — integrated circuit （集積回路）コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの極小電子コンポーネントが搭載されている半導体基板またはチップです。

IDE — integrated device electronics — ハードディスクドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output（入出力）コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力したりする動作またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA — Infrared Data Association（赤外線通信協会）赤外線通信の国際標準を作成する組織です。

IRQ — interrupt request （割り込み要求）デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider （インターネットサービスプロバイダ）インターネットへの接続、E- メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスを行うためにホストサーバーへのアクセスを提供する機関です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料（月払い）で提供します。

K

Kb — キロビット 1024 バイトに相当するデータの単位です。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト データの単位。1 KB は 1024 バイトです。または 1000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ 1000 Hz に相当する周波数の単位です。

L

LAN — local area network （ローカルエリアネットワーク）— 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LCD — liquid crystal display （液晶ディスプレイ）ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルのディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode（発光ダイオード）コンピュータのステータスを示す光を発する電子コンポーネントです。

LPT — Line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続の指定先です。

M

Mb — メガビット 1024 KB に相当するメモリチップの容量の単位です。

Mbps — メガビット / 秒 （Mbps）— 1,000,000 ビット / 秒。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト データの単位です。1 MB は 1,048,576 バイトです。1 MB は 1,024 KB です。ハードディスクドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ 周波数の単位です。1,000,000 サイクル / 秒です。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

MP — メガピクセル デジタルカメラに使用される画像解像度の単位です。

ms — ミリ秒 1000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory（不揮発性ランダムアクセスメモリ）コンピュータの電源が切れたり、外部電源が停止したりした場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を維持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PCI Express — PCI インタフェースの改良版で、プロセッサとそれに接続されているデバイスの間のデータ転送を高速化します。PCI Express は、250 MB/sec ～ 4 GB/sec の速度でデータを転送できます。PCI Express チップセットおよびデバイスが異なる速度で使用できる場合は、動作速度が遅くなります。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議する国際的組織です。

PIO — programmed input/output — データパスの一部としてプロセッサを経由した、2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test （電源投入時の自己テスト）— BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードディスクドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントの基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

PXE — pre-boot execution environment — WfM（Wired for Management）標準で、オペレーティングシステムがないネットワークコンピュータを設定し、リモートで起動できるようにします。

R

RAID — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。RAID の実装レベルには、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 などがあります。

RAM — random-access memory（ランダムアクセスメモリ）プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference（無線電波障害）— 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory（読み取り専用メモリ）コンピュータが削除したり書き込んだりできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM と異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転数です。ハードディスクドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock — システム基板上にあるバッテリで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST — real-time clock reset — 一部のコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

S

SAS — serial attached SCSI — 従来のパラレル SCSI に対し、より高速なシリアル形式の SCSI インタフェースです。

SATA — serial ATA — より高速なシリアル形式の ATA（IDE）インタフェースです。

SCSI — small computer system interface — ハードディスクドライブ、CD ドライブ、プリンタ、スキャナなどのデバイスをコンピュータに接続するのに使用される高速インタフェースです。SCSI では、単一のコントローラを使って多数のデバイスを接続できます。SCSI コントローラバスでは、個々の識別番号を使って各デバイスにアクセスします。

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory（同期ダイナミックランダムアクセスメモリ）— プロセッサの最適クロック速度と同期された DRAM の一種です。

SIM — Subscriber Identity Module — SIM カードには、音声およびデータの転送を暗号化するマイクロチップが搭載されています。SIM カードは電話やノートブックコンピュータに使用できます。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

Strike Zone™ — ハードディスクドライブを保護するために強化されたプラットフォームベース部分です。コンピュータの電源がオンのときでもオフのときでも、コンピュータを落としたとき、または振動などのショックが与えられたときに、衝撃吸収体として機能します。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準規格です。SVGA の通常の解像度は 800 x 600 および 1024 x 768 です。

プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニタ、ビデオコントローラとドライバ、およびビデオメモリの容量によって異なります。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

SXGA — super-extended graphics array — 1280 x 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400 x 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスを Windows のプログラムで使用できるようにするインタフェースです。

U

UAC — user account control — Microsoft Windows Vista™ のセキュリティ機能であり、この機能を有効にすると、ユーザーアカウントと、オペレーティングシステム設定へのアクセスの間にセキュリティの層がもう 1 つ追加されます。

UMA — unified memory allocation — ビデオに動的に割り当てられるシステムメモリです。

UPS — uninterruptible power supply（無停電電源装置）— 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の UPS システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus — USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス（DSL およびケーブルモデム）、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デイジーチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair（シールドなしツイストペア）ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のコンピュータネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600 x 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

WHr — ワット時 おおよそのバッテリ容量を示すのに通常利用される計測単位です。たとえば、66 WHr のバッテリは 66 W の電力を 1 時間、または 33 W を 2 時間供給できます。

WXGA — wide-aspect extended graphics array — 1280 × 800 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

X

XGA — extended graphics array — 1024 x 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできる、ソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

ZIP ドライブ — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバブルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく、約 2 倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

あ

アンチウイルスソフトウェア — コンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E- メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。

か

カーソル — キーボード、タッチパッドまたはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタで印刷される画像や、モニタに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合です。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み不可に設定 — ファイルやメディアに、データの内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けた時に PC カードスロットからカードの端がはみ出ています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上（コンピュータによって異なる場合もあります）のコネクタです。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルディスプレイモードとも呼ばれます。

華氏 — Fahrenheit — 温度の測定単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

壁紙 — Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

キーの組み合わせ — 同時に複数のキーを押してコンピュータを操作します。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動用メディア — コンピュータを起動するのに使用する CD、DVD、またはフロッピーディスクです。ハードディスクドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD、起動 DVD、または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。Drivers and Utilities メディアは起動用メディアです。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュ — プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュ。

L2 キャッシュ — プロセッサに外付けされた、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンダリキャッシュ。

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードディスクドライブ上の特別な予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードディスクドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

クロック速度 — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

グラフィックモード — x 水平ピクセル数 × y 垂直ピクセル数 × z 色数で表されるビデオモードです。グラフィックスモードは、どんな形やフォントも表現できます。

光学ドライブ — CD、DVD または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。光学ドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

国際通行許可書 — 物品を外国に一時的に持ち込むことを許可する国際通関用文書です。商品パスポートとも呼ばれます。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するための Windows ユーティリティです。

さ

サージプロテクタ — 雷などが原因で、コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 % 以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護されません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの **support.jp.dell.com** にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話でお問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

指紋リーダー — コンピュータのセキュリティの一環としてユーザーの認証に指紋を使用するストリップセンサーです。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用される I/O ポートです。

スキャンディスク — ファイル、フォルダ、およびハードディスク上にエラーがないかどうかをチェックする Microsoft ユーティリティです。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして、電力を節約する省電力モードです。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー — ケーブルを使用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

赤外線ポート — コンンピュータの前面にある通信ポート。このポートを搭載した一部のコンピュータでは、Dell Travel Remote を使用して、対応するソフトウェアアプリケーションを制御できます。他のシステムでは、このポートによってケーブルを使用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるようになります。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定したりするのに使うプログラムです。ほとんどの Windows 用ソフトウェアパッケージには、**setup.exe** または **install.exe** というプログラムが付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティ。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

た

タスクトレイ — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。システムトレイとも呼ばれます。

テキストエディタ — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

ディスクのストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルコア — 演算を行う物理ユニットを単一のプロセッサパッケージ内に搭載したテクノロジで、演算の効率とマルチタスク機能を向上させます。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。拡張ディスプレイモードとも呼ばれます。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ドッキングデバイス — ノートブックをデスクトップワークスペースに適応させるために、ポートレプリケーション、ケーブル管理、およびセキュリティ機能を提供します。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスを、オペレーティングシステムが制御できるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

な

内蔵 — 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。ビルトインとも呼ばれます。

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

は

ハードディスクドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードディスクドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

ハイパースレッディング — ハイパースレッディングは Intel のテクノロジで、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでパフォーマンスを全体的に向上し、複数のタスクを同時に処理することを可能にします。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1 バイトは 8 ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バッテリ駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリがコンピュータに電源を供給する間、充電量を維持できる時間（分または時間数）です。

バッテリの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間 （年数）です。

パーティション — ハードディスクドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

パラレルコネクタ — コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用される I/O ポートです。LPT ポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

ビデオ解像度 — 解像度を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニタの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供するビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックをモニタに表示する際のモードです。グラフィックをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、x 水平ピクセル数 X y 垂直ピクセル数 X z 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、x 列 X y 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

ピクセル — ディスプレイ画面のシングルポイントです。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 X 600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備する工程のことです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整頓したりグループ化したりするスペースを表す用語です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

ブルーレイディスク ™（BD） — 光学ストレージ技術であり、最大ストレージ容量 50 GB、1080p の最大ビデオ解像度（HDTV 必須）、および 7.1 チャネルのネイティブな非圧縮のサラウンドサウンドを提供します。

プラグアンドプレイ — コンピュータがデバイスを自動的に設定できる機能。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プロセッサ — プログラム命令を解析して実行するコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

ま

ミニカード — 通信用 NIC など内蔵周辺機器用に設計された小型のカードです。ミニカードの機能は、標準の PCI 拡張カードと同等です。

ミニ PCI — モデムや NIC などの通信を重視した内蔵周辺機器の標準です。ミニ PCI カードは、標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持つ小型の外付けカードです。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM、およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てるプロセスです。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

メディアベイ — 光学ドライブ、セカンドバッテリ、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。

モジュールベイ — メディアベイを参照してください。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E- メールの交換に使用されます。

や

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み保護にしている場合
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合

ら

リフレッシュレート — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線 （または垂直周波数）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

わ

ワイヤレス LAN — wireless local area network（ワイヤレスローカルエリアネットワーク）。インターネットアクセスを可能にするアクセスポイントやワイヤレスルーターを使用し、電波を介して互いに通信する一連の相互接続コンピュータを指します。

ワイヤレス WAN — wireless wide area network（ワイヤレスワイドエリアネットワーク）。セルラーテクノロジを使用した、ワイヤレスの高速データネットワークで、ワイヤレス LAN よりもはるかに広い地域に対応します。

索引

さ

た

な

は

ま

ら